

平成21年度

**学校評価・情報提供の充実・改善
のための実践研究事業報告書**

平成22年2月

宮城県教育委員会

はじめに

平成20、21年度の2年間にわたって、柴田町に取り組んでいただいた、「学校評価・情報提供の充実・改善のための実践研究事業」が終了することになりました。これまで、より充実した学校評価システムの構築に取り組まれた柴田町学校評価事業運営委員会や事業内容検討部会及び各小・中学校の学校関係者評価委員会をはじめとする柴田町の関係者の皆様と、協力校の先生方に深く感謝申し上げます。

文部科学省では、学校教育法を平成19年6月に改正し、学校評価及び情報提供に関する規定を設けました。また、学校教育法改正を受けて、学校教育法施行規則を平成19年10月に改正し、自己評価、学校関係者評価の実施及び評価結果の公表や設置者への報告について規定し、学校評価に関わる法的整備を行っております。

宮城県教育委員会では、平成15年度から17年度まで「学校評価システムの確立に関する調査研究」を文部科学省の委嘱を受けて実施し、平成18、19年度の2年間「学校評価システム構築推進地域」として、富谷町を指定し研究に取り組んでいただき、そして今回柴田町を指定して、学校評価・情報提供について実践研究に取り組んでいただきました。

今回、柴田町におかれましては、保護者、児童生徒によるアンケート及び教職員による自己評価について、「柴田町教育振興計画」を基に、学校教育における重点を明確にして町内小・中学校共通の評価項目を作成し、各校、そして町全体としての現状を把握し、その結果を各校の取組と町の施策に活かすシステム作りに取り組まれたことは、誠に大きな成果となりました。

「学校評価はコミュニケーション・ツール」ともいわれ、学校と保護者、地域住民、そして行政が学校の現状を知り、課題意識を共有して、意見を交換しながら、力を合わせて学校教育の充実・改善に取り組むために活用していくことが望まれています。その点において、本実践研究には確かな道筋を示していただきました。

本報告書は、これまでの実践研究の成果をまとめ、広く普及することを目指しています。各市町村教育委員会及び小・中学校におかれましては、柴田町の取組を参考にいただき、地域や学校の実情に合わせた学校評価システムを構築し、学校教育の充実・発展を図っていただくようお願いいたします。

また、柴田町におかれましても、これまでの研究を活かし、評価システムをさらに充実させていただき、宮城県のパイオニアとして、その成果を広く発信していただきたいと存じます。

平成22年2月

宮城県教育庁
義務教育課長 竹田 幸正

目 次

まえがき

I 柴田町教育委員会における実践研究の概要について	1
1 事業の趣旨	
2 学校評価の重点事項と柴田町教育委員会の取組	
3 事業による成果として	
II 推進地域の実践報告 ― 2年次報告―	3
1 趣旨	
2 研究の目的	
3 研究実践校	
4 学校評価の構成	
5 推進組織	
6 研究内容	
7 平成21年度学校評価結果の概要	
8 本事業の成果及び課題	
9 参考資料	38
(資料1) 学校評価・情報提供の充実・改善のための実践研究事業 事業運営委員会委員名簿	
(資料2) 学校評価・情報提供の充実・改善のための実践研究事業 事業内容検討会委員名簿	
(資料3) 児童・生徒アンケート用紙	
(資料4) 保護者アンケート用紙	
(資料5) 自己評価用紙	
(資料6) 平成21年度学校関係者評価報告書様式	
(資料7) 学校評価・情報提供の充実・改善のための実践研究事業組織図	
(資料8) 柴田町学校評価実施要項	
(資料9) 柴田町学校関係者評価委員会設置要綱	
(資料10) 柴田町立小中学校学校関係者評価委員会設置要領	

柴田町教育委員会における実践研究の概要について

宮城県教育委員会

1 事業の趣旨

学校の自主性・自律性が高まる上で、その教育活動等の成果を検証し、学校の運営の改善と発展を目指すとともに、学校が説明責任を果たし、家庭や地域との連携協力を進めていくことが必要となっています。

柴田町教育委員会では、地域に支えられ、「地域と創る学校づくり」を教育重点課題の一つに掲げ、地域に開かれた特色ある学校づくりの推進に努めています。各学校は学校運営に対する地域住民及び保護者等の参画と意見及び要望の反映を図り、信頼される学校づくりを推進するために学校評価を計画的に実施し、教育活動や学校運営について組織的・継続的に改善を図るとともに、保護者や地域住民に説明責任を果たし、町民の負託に応える教育を推進することが重要であると考え、この実践事業に取り組みました。

2 学校評価の重点事項と柴田町教育委員会の取組

宮城県教育委員会では、学校評価ガイドラインに基づき、適切かつ確実な学校評価の実施のための重点を、①学校、家庭、地域が一体となった学校評価の推進 ②重点化、精選化した自己評価の実施 ③学校改善の質を高める学校関係者評価の推進 ④設置者からの支援・改善につなげる報告書の提出 の4点と捉えています。

柴田町教育委員会では、これらの点について、以下のように取り組まれました。

(1) 学校、家庭、地域が一体となった学校評価の推進

学校は保護者や地域住民の理解と信頼を得ながら開かれた学校づくりに取り組んでいくことが大切です。教育活動の説明責任を果たすことにより保護者や地域住民との連携が図られ、学校評価が円滑に進められると考えます。

柴田町教育委員会においては、町内の小・中学校全体が学校評価を円滑に進められるとともに、学校評価を各学校の個別の取組にとどめることなく、各学校の評価結果を集約し、町全体の学校教育の課題を明確にし、その充実・改善に向け、学校、家庭、地域が協力して取り組めるような組織作りに取り組みました。

[主な取組]

- ① 柴田町学校評価事業運営委員会の設置
- ② 事業内容検討委員会の設置
- ③ 学校関係者評価委員会（各学校）の設置
- ④ 各学校による児童生徒アンケート、保護者アンケート及び自己評価、学校関係者評価の結果を「学校だより」もしくは「学校ホームページ」で公表

(2) 重点化、精選化した自己評価の実施

全ての教育活動を網羅的に細かくチェックするとなると、自己評価の項目が膨大になり、自己評価をすることが目的になってしまい、評価をすることで終わってしまうケースもあります。大切なのは、自己評価を学校改善につなげることであり、そのために評価項目の重点化、精選化を図ることが必要です。

柴田町教育委員会においては、評価項目の設定に当たって、従来のように学校教育活動を網羅的に細かくチェックするようなものではなく、「柴田町教育振興基本計画」を基に、各学校で特に重点を置いている項目を取り上げ、調査項目としました。また、アンケート等の集計作業を円滑に行うための学校評価集計システムを専門業者とともに開発しました。

[主な取組]

- ① 「柴田町教育振興基本計画」に基づいた自己評価項目の作成

- ② 一貫性のある児童生徒アンケート、保護者アンケート、自己評価の評価用紙及び学校関係者評価の評価報告用紙の作成
- ③ 学校評価集計システムの開発（専門業者との連携）

（３） 学校改善の質を高める学校関係者評価の推進

自己評価の結果や児童生徒の実態を理解してもらい、学校課題やその改善策を見い出していくのが学校関係者評価です。児童生徒の実態及び学校運営等の理解のため、学校関係者評価委員には、普段から授業や行事、施設等について観察をしていただくことが大切です。

柴田町教育委員会及び各学校においては、学校関係者評価の評価者が普段から学校の授業や行事、施設等について観察していただく機会を設けています。また、客観的かつ適切に評価できるように、学校評価について理解を深める機会を設け、学校関係者評価委員の方々に趣旨を十分理解してもらおうようにしています。

[主な取組]

- ① 学校評価委員が教育活動を参観する機会の設定
- ② 学校関係者評価委員が学校評価についての理解を深める機会の設定
- ③ 学校関係者評価の評価方法の開発

（４） 設置者からの支援・改善につなげる報告書の提出

自己評価結果や学校関係者評価結果について設置者に報告するという事は、当該学校の課題や改善策を報告するという事です。

柴田町の各学校では、児童生徒アンケート、保護者アンケートの結果を参考にして、教員による自己評価が行われ、さらにその結果を基に学校関係者評価が行われ、設置者に報告書が提出されます。町教育委員会では、その結果を集約することにより、各学校とともに町全体の状況についての的確に把握し、学校改善のための支援を行ったり、新たな施策を打ち立てるための参考としています。

[主な取組]

- ① 児童生徒アンケート及び保護者アンケートの実施とデータの集計処理
- ② 学校では自己評価を実施し、その結果を学校関係者評価報告書に「自己評価結果から次年度に向けて」の記述を加えて、学校関係者評価委員会に提出
- ③ 学校関係者評価委員会では、①②を基に評価するとともに「学校関係者による主な意見」を付して学校関係者評価報告書を設置者に提出
- ④ 各学校では①②③の結果を基に、現状を把握するとともに、課題への対応と、新しい計画づくり
- ⑤ 町教育委員会は①②③の結果を集約し、各校への支援や教育施策の評価及び新たな施策の展開

3 事業による成果として

柴田町教育委員会は、町を上げて組織的に学校評価に取り組み、アンケート調査や自己評価、学校関係者評価の結果を、保護者はもとより地域住民に情報発信するとともに、学校関係者評価委員会等、様々な会合で、町全体や各学校の現状や課題について意見交換し、各校への支援や教育施策に反映しようとしています。また、町内各学校共通に「柴田町教育振興計画」を基に評価項目を設定し、町全体の教育課題や学校経営に有効な基礎データを得るとともに、集計作業が円滑に行えるよう学校評価集計システムを開発しています。このような組織的・継続的な取り組みにより、柴田町が目指す、地域に支えられ、「地域と創る学校づくり」が推進できたのではないかと考えます。

推進地域の実践報告
－ 2 年次報告 －

1 趣旨

本町では、教育重点目標の一つとして、「地域に支えられ、『地域と創る学校づくり』」を掲げ、地域に開かれた特色ある学校づくりの推進に努めている。この「地域に支えられ、『地域と創る学校づくり』」を更に推進していくために、学校評価の内容を十分検討し、学校評価を計画的に実施する必要がある。それにより得られたデータの分析や考察結果は、各校の教育活動や学校運営の改善、継続の判断基準となり、より信頼される開かれた学校づくりへとつながる。保護者や地域住民に説明責任を果たし、町民の負託に応える教育を推進する上で、この一連の流れを組織的・継続的にサイクル化することは重要であり、それを実践研究することにより、学校評価・情報提供の充実・改善を図るものである。

2 研究の目的

- (1) 各学校が、自らの教育活動及びその他の学校運営について、目指すべき成果やそれに向けた取組について目標を設定し、その達成状況を把握及び考察し、整理することによって取組の適切さを検証し、組織的かつ継続的に改善すること。
- (2) 各学校が、自己評価及び学校関係者評価の実施とその結果の説明及び改善方法の公表並びに情報提供により、保護者及び地域住民から自らの教育活動その他の学校運営に対する理解及び参画を得て、信頼される開かれた学校づくりを進めること。
- (3) 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援及び条件整備等の必要な措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

3 研究実践校

小学校6校、中学校3校、計9校

柴田町立船岡小学校、槻木小学校、柴田小学校、西住小学校、船迫小学校、東船岡小学校
柴田町立船岡中学校、槻木中学校、船迫中学校

4 学校評価の構成

(1) 自己評価

学校自ら行う評価であり、学校運営改善のために実施する。

(2) 学校関係者評価

保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会が、自己評価の結果について評価することを基本として実施する。

(3) 保護者アンケート、児童生徒アンケート

自己評価を補うものであり、児童生徒の様子をとらえるものとする。保護者の意向や児童生徒の変容を把握し、学校運営に生かすための情報である。

5 推進組織

(1) 柴田町学校評価事業運営委員会

柴田町における学校評価の適切な活用方法等について協議する。(資料1参照)

(2) 事業内容検討委員会

各学校における学校評価の組織的な推進体制や評価内容を協議する。東船岡小学校を事務局として各学校の代表職員で構成する。(資料2参照)

(3) 学校関係者評価委員会

自己評価の客観性、透明性を高めるため、校長から委嘱された保護者や地域住民等が、当該学校の教育活動の参観等を通して、自己評価結果について評価する。

6 研究内容

目標(Plan)・・実行(Do)・・評価(Check)・・改善(Action)というPDCAサイクルを基に、以下の手順で実施する。

(1) 各評価項目の検討および設定

上記の事業内容検討委員会でアンケート項目、評価項目の検討を行う。

(2) 保護者アンケート、児童生徒アンケートの実施

自己評価の実施に先立ち、保護者アンケートと児童生徒アンケートを実施する。

- 保護者アンケートは、「児童生徒の様子について」と「学校について」の二つの大きな設問を設定して実施する。学校への意見要望欄も作り、学級担任へ、封筒に入れ提出する。(匿名性の担保)
- 児童生徒アンケートでは、「学校での様子について」の設問を設定して実施する。項目については、これまでの町内小・中学校で実施していたアンケートを基に構成したものとする。児童生徒アンケートは小学校3年生以上を対象とする。
- 両アンケートにおいて、比較検討ができるよう項目の配列の整合性をもたせる。
- 昨年度の反省から、保護者アンケートにおいて「進路指導」を「キャリア教育」と修正するなど、小・中学校双方の保護者にとって分かりやすい表記をする。
- 実施時期は、12月3日用紙配布、12月11日回収を基本として、各学校の行事などに合わせ、スケジュールをそれぞれ設定する。
- アンケートのデータ処理は、児童生徒アンケートデータ処理等を各学校で行い、保護者アンケートデータ処理は業者委託している。

(3) 自己評価の実施

○ 自己評価の項目について

学校評価ガイドラインに記載されているように、自己評価は、学校教育活動を、網羅的に細かなチェックとして行うのではなく、重点化された目標を設定し、精選して行うことが重要である。そこで、項目の作成にあたっては、昨年度に引き続き、今年度も町の教育委員会から示される「柴田町教育振興基本計画」を基に、各学校で特に重点を置いている項目を取り上げ、調査項目を21項目とした。

○ 評価項目を検討する際の留意点

- ・ 共通評価項目が、自校の教育活動にあてはまるか検討する。
- ・ できるだけ各校の次年度教育計画作成のための評価と一体化を図れるようなものを目指す。
- ・ 評価でC及びDと評価した項目については、意見欄にその理由を記入する。

○ 評価規準について

A : 大変良い	(適切な取組で、高いレベルにある)
B : 良い	(適切な取組で、満足できるレベルにある)
C : 課題がある	(取組が不十分で、成果は十分とは言えない)
D : かなり課題がある	(取組は不十分で、成果はほとんどあがっていない)

A～Dまでの4段階とし、評価が難しい場合には無回答でも構わないこととする。

(4) 学校関係者評価の実施

自己評価の客観性を高めるために、学校の具体的な教育活動等を説明した上でを行い、意見交換や学習参観等により、開かれた学校づくりを積極的に進める契機とする。

○ 実施の上での留意点

- ・ 自己評価結果を踏まえて実施する。
- ・ 学校関係者の意見は、委員の個人名を挙げずに記録する。
- ・ 評価項目の「妥当である」、「妥当でない」、「評価できない」の判定は、委員一人一人が評価用紙に記入するのではなく、話し合いの結果を記入する。
- ・ 学校関係者評価委員会の開催回数などは、各校で決める。
- ・ 各校の行事計画等については評価に活用できるよう、委員へ事前に案内する。

(5) 自己評価報告書及び学校関係者評価報告書の作成

平成21年度自己評価結果を踏まえた学校関係者評価報告書を作成し、平成22年3月31日までに柴田町教育委員会に報告する。この報告書には、目標の達成状況と次年度へ向けての取組について、具体的に記載する。

(6) 学校評価集計システムの開発

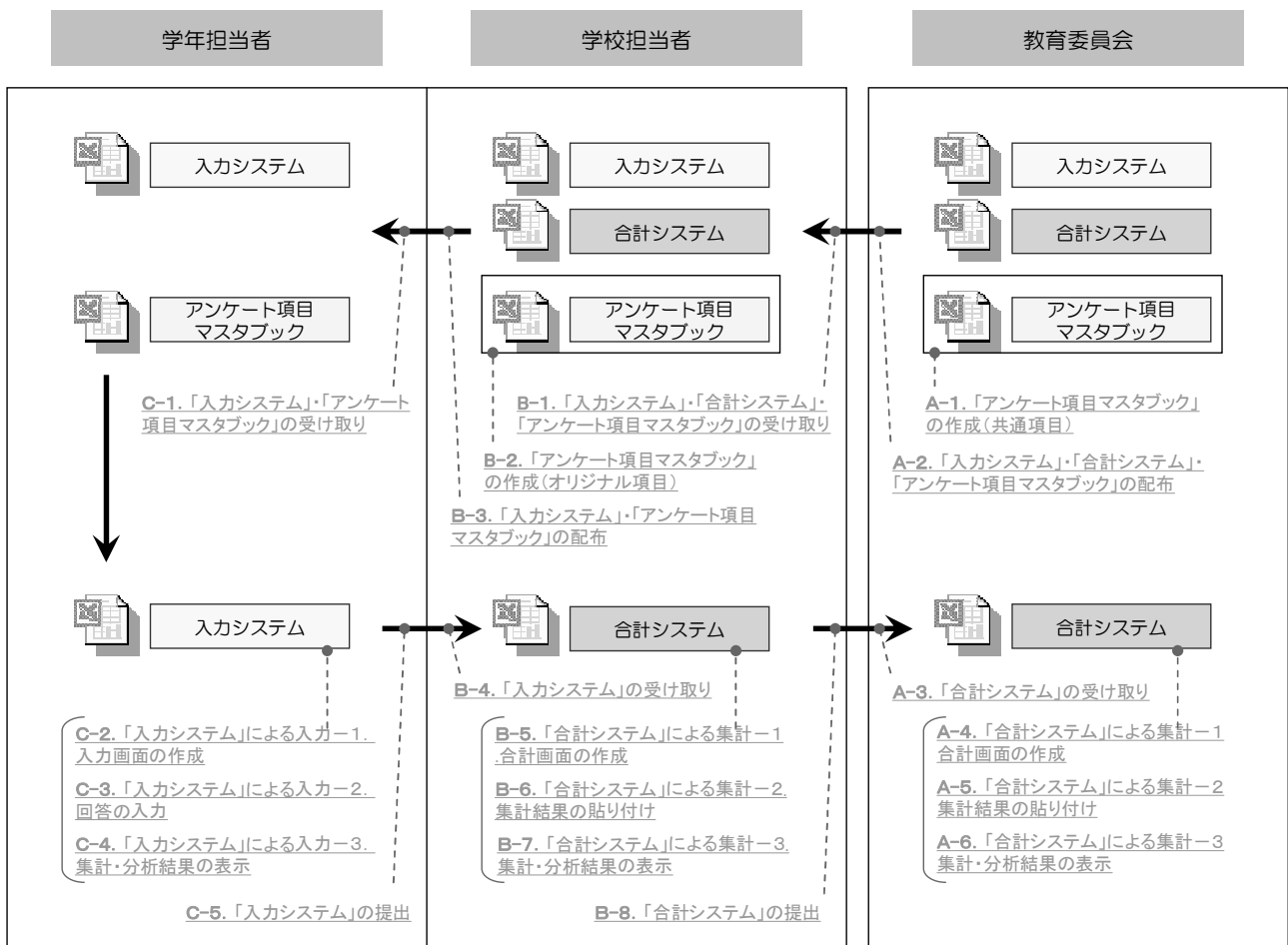
昨年度は、今後柴田町全体で学校評価事業を推進していくための土台づくりのために、全校共通の評価項目の検討やそれらの評価結果の共有、学校評価にかかわる各委員会の信頼関係づくり等を中心に活動を展開した。一方で、それらの活動に相当数の時間や手間が割かれること

が当初より予想されたため、回収されたアンケート調査用紙の入力・集計業務については専門業者に依頼した。

しかし、継続的な学校評価事業の推進のためには、入力・集計の作業も含めて各学校が自立的に推進できる環境が必要不可欠である。そこで、評価項目や推進体制の基盤が整ったことを受け、その成果も踏まえつつ、学校評価の継続に際して必要となる各学校での入力・集計作業を支援する学校評価システムを開発することとした。

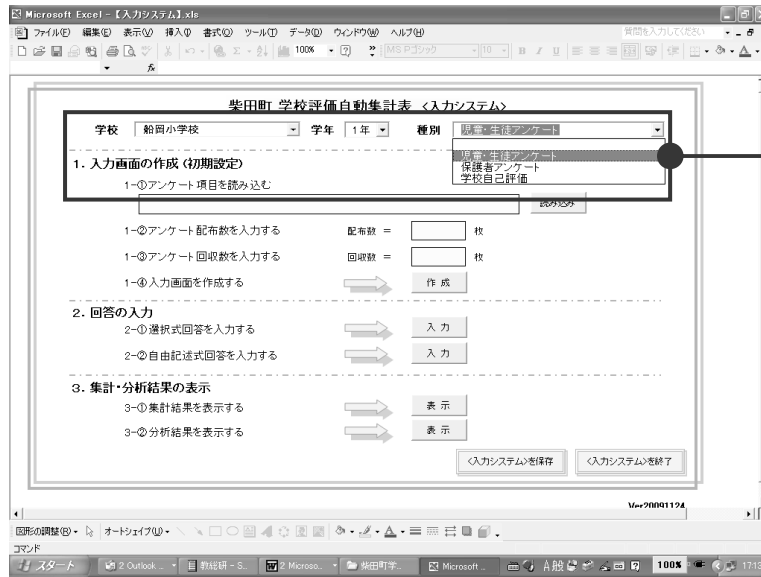
【柴田町学校評価 自動集計表】(概要)

- Microsoft Excel を活用した自動集計システム
- [入力システム][合計システム][アンケート項目マスタブック]の3つの基礎ファイルによる運用
- 教育委員会、学校担当者、学年担当者による役割分担、データの受け渡し



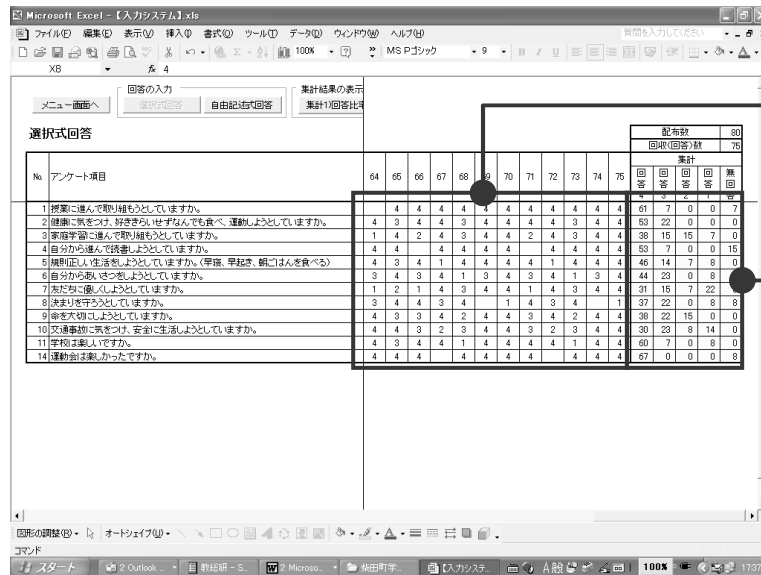
教育委員会… [A-1] から [A-6] までの集計・分析作業を担当
 学校担当者… [B-1] から [B-8] までの集計・分析作業を担当
 学年担当者… [C-1] から [C-5] までの集計・分析作業を担当

[入カシステム] TOP 画面



学校名や
アンケート種別
を選択

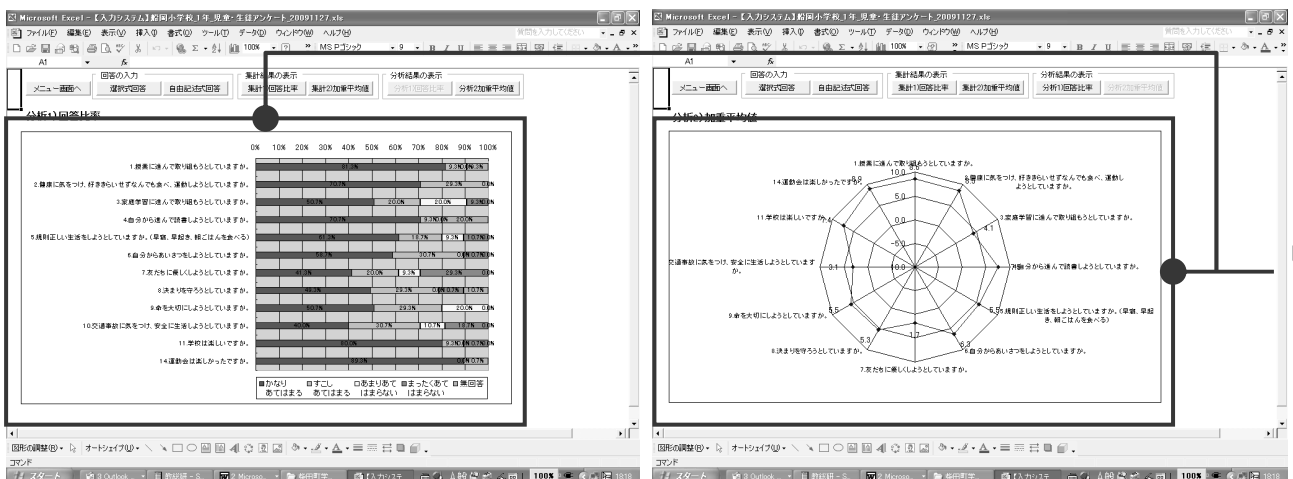
[入カシステム] 入力画面



各学年担当者が
回答を入力

自動表示
(集計)

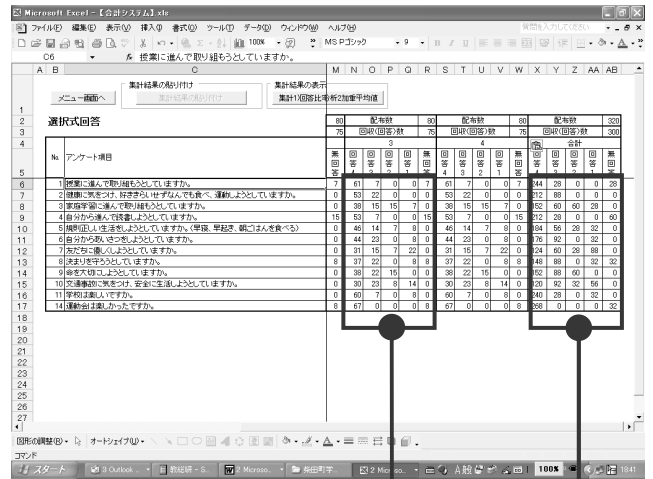
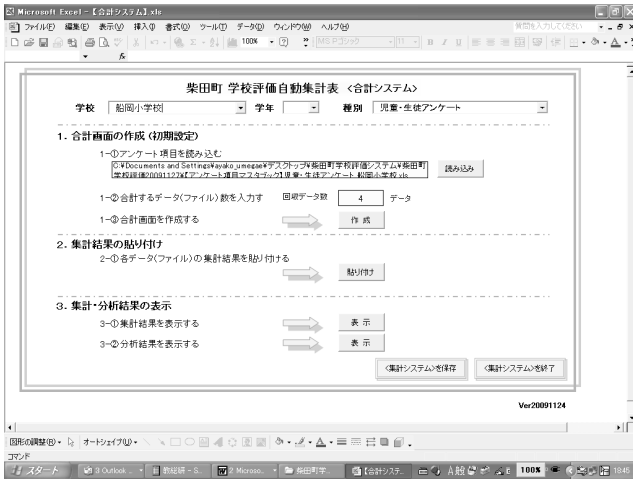
[入カシステム] 集計・分析画面



自動表示
(分析)

[合計システム] TOP 画面

[合計システム] 入力画面



自動表 (集計)

各学年 (各学校) の集計結果をもとに、
学校担当者 (教育委員会) が入力
(=貼り付け)

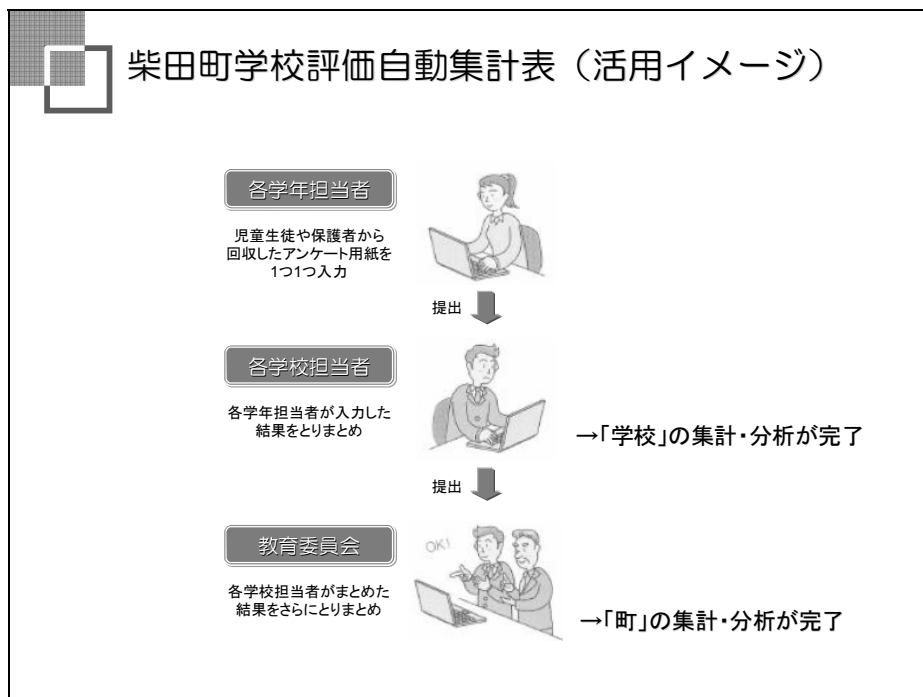
柴田町学校評価自動集計表の特長は主に2点ある。

1点目は、実際に回収された児童生徒アンケートや保護者アンケートを各学年担当者が入力するだけで、集計・分析結果が自動的に算出されることである。なお、この集計・分析の手法は昨年度の実践に基づいて設計されている。

2点目は、それを学校担当者がとりまとめることで学校全体の学校評価結果が、それを更に教育委員会担当者がとりまとめることで町全体の学校評価結果が効率的に算出できることである。

(詳細は参考資料「柴田町学校評価 自動集計表—操作マニュアル—」を参照)

要確認



(7) 公表

- 保護者アンケート、児童生徒アンケート結果については、「学校だより」もしくは「学校ホームページ」で速やかに情報提供を行う。
- 自己評価、学校関係者評価の結果については、学校だより、学校ホームページ等により保護者、地域住民に説明し、それを契機とし、教育活動の改善に向けた具体的な交流・協力を行う。公表するに当たっては、結果や分析のほか、今後の改善策も併せて公表する。

(8) 報告

各学校は、平成21年度自己評価結果を踏まえた学校関係者評価報告書を作成し、柴田町教育委員会及び柴田町学校評価事業運営委員会に報告する。

7 平成21年度学校評価結果の概要

(1) 児童生徒アンケート、保護者アンケート、自己評価

① 実践の概要

ア 調査方法

【9. 参考資料】に掲載の「児童生徒アンケート」、「保護者アンケート」、「自己評価」の各調査用紙を用い、それぞれの対象に配布の上、無記名にて実施した。

イ 調査対象

児童生徒・保護者・教職員について、それぞれ以下を対象とした。

	児童生徒	保護者	教職員
小学校 (6校)	3年～6年	1年～6年	全教職員
中学校 (3校)	1年～3年	1年～3年	1年～3年

ウ 調査期間

調査用紙の配布・回収について、以下の日程で実施した。

※調査期間については各校の状況により若干の違いがある。

	調査期間
児童生徒アンケート	2009年11月11日(水)～12月11日(金)
保護者アンケート	2009年11月11日(水)～12月11日(金)
自己評価	2009年12月4日(金)～12月14日(月)

エ 配布数および回収数

【町全体 (9校) の配布数および回収数】

児童生徒アンケート、保護者アンケート、自己評価のそれぞれの回収率(回答率)は以下の通りである。児童生徒アンケートと自己評価はほぼ100%、保護者アンケートについても80%を超え、

高い回収率となった。

	町全体			小学校	中学校
	配布数	回収数	回収率	回収率	回収率
児童生徒アンケート	2408	2375	98.6%	99.3%	97.6%
保護者アンケート	3159	2589	82.0%	86.0%	73.3%
学校自己評価	189	188	99.5%	99.2%	100.0%

※配布数・回収数（単位）：人

※回収率：小数点第二位で四捨五入

【小学校（6校）の配布数および回収数】

●児童アンケート

	全体			3年	4年	5年	6年
	配布数	回収数	回収率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率
船岡小学校	412	412	100.0%	111	103	109	89
				26.9%	25.0%	26.5%	21.6%
槻木小学校	368	365	99.2%	92	85	106	82
				25.2%	23.3%	29.0%	22.5%
柴田小学校	49	49	100.0%	13	9	12	15
				26.5%	18.4%	24.5%	30.6%
船迫小学校	308	301	97.7%	68	82	74	77
				22.6%	27.2%	24.6%	25.6%
西住小学校	58	58	100.0%	18	17	11	12
				31.0%	29.3%	19.0%	20.7%
東船岡小学校	235	235	100.0%	60	59	58	58
				25.5%	25.1%	24.7%	24.7%
合計	1430	1420	99.3%	362	355	370	333
				25.5%	25.0%	26.1%	23.5%

●保護者アンケート

	全体			1年	2年	3年	4年	5年	6年
	配布数	回収数	回収率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率
船岡小学校	597	554	92.8%	82	80	105	92	108	87
				14.8%	14.4%	19.0%	16.6%	19.5%	15.7%
槻木小学校	567	436	76.9%	79	82	66	77	75	57
				18.1%	18.8%	15.1%	17.7%	17.2%	13.1%
柴田小学校	72	68	94.4%	12	10	11	8	12	15
				17.6%	14.7%	16.2%	11.8%	17.6%	22.1%
船迫小学校	460	388	84.3%	59	61	60	75	66	67
				15.2%	15.7%	15.5%	19.3%	17.0%	17.3%
西住小学校	86	82	95.3%	16	10	18	16	11	11
				19.5%	12.2%	22.0%	19.5%	13.4%	13.4%
東船岡小学校	364	318	87.4%	55	57	49	51	55	51
				17.3%	17.9%	15.4%	16.0%	17.3%	16.0%
合計	2146	1846	86.0%	303	300	309	319	327	288
				16.4%	16.3%	16.7%	17.3%	17.7%	15.6%

●自己評価

	配布数	回収数	回収率
船岡小学校	31	31	100.0%
槻木小学校	29	29	100.0%
柴田小学校	12	12	100.0%
船迫小学校	19	19	100.0%
西住小学校	11	10	90.9%
東船岡小学校	20	20	100.0%
合計	122	121	99.2%

※ 各校の学年の構成率は、「各校の学年の回収数÷全体の回収数×100」で算出。小数点第二位で四捨五入（中学校も同様）

【中学校（3校）の配布数および回収数】

●生徒アンケート

	全体			1年	2年	3年
	配布数	回収数	回収率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率
船岡中学校	432	432	100.0%	146 33.8%	157 36.3%	129 29.9%
槻木中学校	297	284	95.6%	85 29.9%	93 32.7%	106 37.3%
船迫中学校	249	239	96.0%	69 28.9%	81 33.9%	89 37.2%
合計	978	955	97.6%	300 31.4%	331 34.7%	324 33.9%

●保護者アンケート

	全体			1年	2年	3年
	配布数	回収数	回収率	回収数・構成率	回収数・構成率	回収数・構成率
船岡中学校	468	314	67.1%	121 38.5%	94 29.9%	99 31.5%
槻木中学校	296	212	71.6%	63 29.7%	78 36.8%	71 33.5%
船迫中学校	249	217	87.1%	64 29.5%	73 33.6%	80 36.9%
合計	1013	743	73.3%	248 33.4%	245 33.0%	250 33.6%

●自己評価

	配布数	回収数	回収率
船岡中学校	27	27	100.0%
槻木中学校	20	20	100.0%
船迫中学校	20	20	100.0%
合計	67	67	100.0%

オ 分析手法

本調査では2つの分析手法を用いている。1つは、各質問について、「かなりあてはまる」「あてはまる」「あまりあてはまらない」「まったく」(保護者向け学校評価アンケートでは「とてもそう思う」「そう思う」など)の回答比を示したもの<=棒グラフ>、もう1つは、加重平均値を用いて各質問の回答の平均値を示したもの<=レーダーチャート>である。

なお、【10.2. 実践結果1:児童生徒アンケート】から【10.4. 実践結果3:自己評価】に記載の考察において、「%」で示しているものが回答比<=棒グラフ>を、「点」で示しているものが回答の平均値<=レーダーチャート>を、それぞれ参照したものである。

【加重平均値の算出方法 及び 見方】

●加重平均値の算出方法

下記の得点を加点后、各項目の合計得点を件数(無回答を除く)で割った値が加重平均値となる。
(小数点第二位まで算出)

【児童生徒アンケート】

「かなりあてはまる」・・・ 10点の加
「あてはまる」・・・ 5点の加
「あまりあてはまらない」・・・ -5点の加
「まったくあてはまらない」・・・ -10点の加

【保護者アンケート】

「とてもそう思う」・・・ 10点の加
「そう思う」・・・ 5点の加
「あまりそう思わない」・・・ -5点の加
「全くそう思わない」・・・ -10点の加

【自己評価】

「大変良い」・・・ 10点の加
「良い」・・・ 5点の加
「課題がある」・・・ -5点の加
「かなり課題がある」・・・ -10点の加

●加重平均値の見方

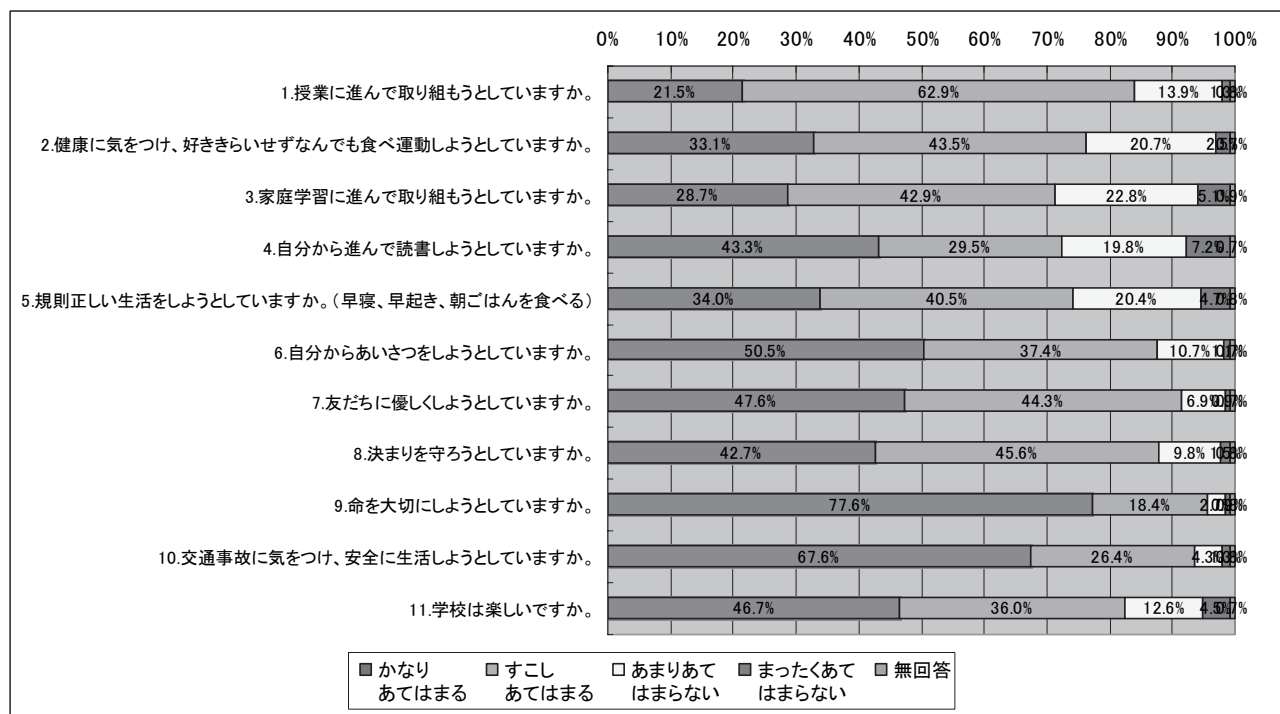
プラス値は「あてはまる」の領域、マイナス値は「あてはまらない」の領域に入る項目となる。

- ・ 5.02点であれば、平均して“あてはまる”に近い回答であり、7.50点では平均して「かなりあてはまる」「あてはまる」の中間ぐらいの回答であるとみることができる。
- ・ 実数や構成比は「かなりあてはまる」「まったくあてはまらない」などの評価を項目別に比較する時に用いるが、全体としてどういう評価であるかを判断する際には分かりにくく、そうした際に加重平均値の得点を用いると一目で判断できる。

② 実践結果-1：児童生徒アンケート

【町全体（9校）：児童生徒アンケートの結果】

【図表 10-2-1：児童生徒：あなたの考えに近いあてはまる考え（回答比）】



全 11 項目について、「かなりあてはまる」「あてはまる」と答えた割合が 70%を超えている。また、うち 7 項目について 80%を超えており、非常に高い回答比となっている。

特に「かなりあてはまる」と回答した生徒が多く、加重平均値が高かった項目としては、(9)命を大切にしようとしています (8.5 点)、(10)交通事故に気をつけ、安全に生活しています (7.7 点)、(7)友だちに優しくしています (6.5 点)、(6)自分からあいさつをします (6.3 点)、(8)決まりを守ろうとしています (5.9 点)、(11)学校は楽しいです (5.4 点)、などがあつた。

一方、「あてはまらない」と回答した生徒が多かった項目に該当するものはなかったが、棒グラフ(回答比)から、(2)健康に気をつけ、好き嫌いせずなんでも食べ運動しています、(3)家庭学習に進んで取り組んでいます、(4)自分から進んで読書しています、(5)規則正しい生活をしています、についてはともに約 20%の生徒が「あてはまらない」と回答していることもうかがえる。

※ 点 : レーダーチャート(回答の平均値)より参照

※ % : 棒グラフ(回答比)より参照

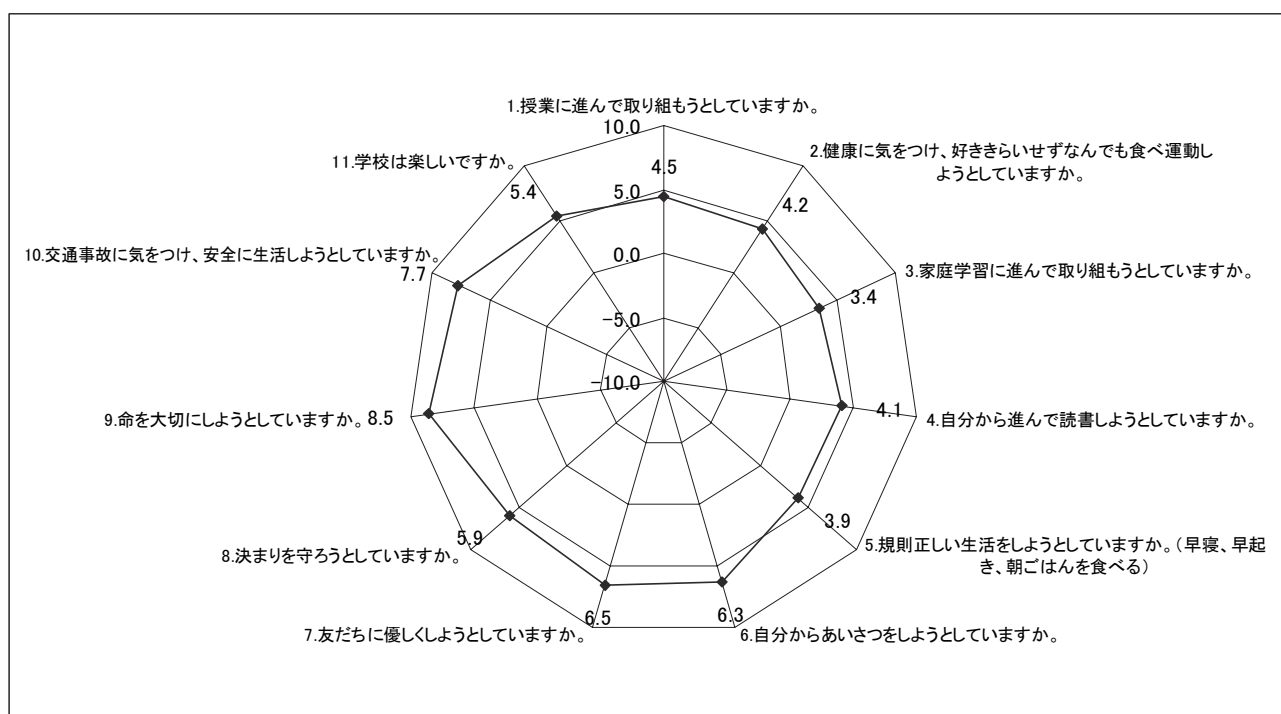
< 「かなりあてはまる」の回答が多い項目(加重平均値が 5.0~10.0 の項目) >

(9)命を大切にしようとしていますか。	8.5 点
(10)交通事故に気をつけ、安全に生活しようとしていますか。	7.7 点
(7)友だちに優しくしようとしていますか。	6.5 点
(6)自分からあいさつをしようとしていますか。	6.3 点
(8)決まりを守ろうとしていますか。	5.9 点
(11)学校は楽しいですか。	5.4 点

< 「あてはまらない」の回答が多い項目(加重平均値が -10.0~0.0 の項目) >

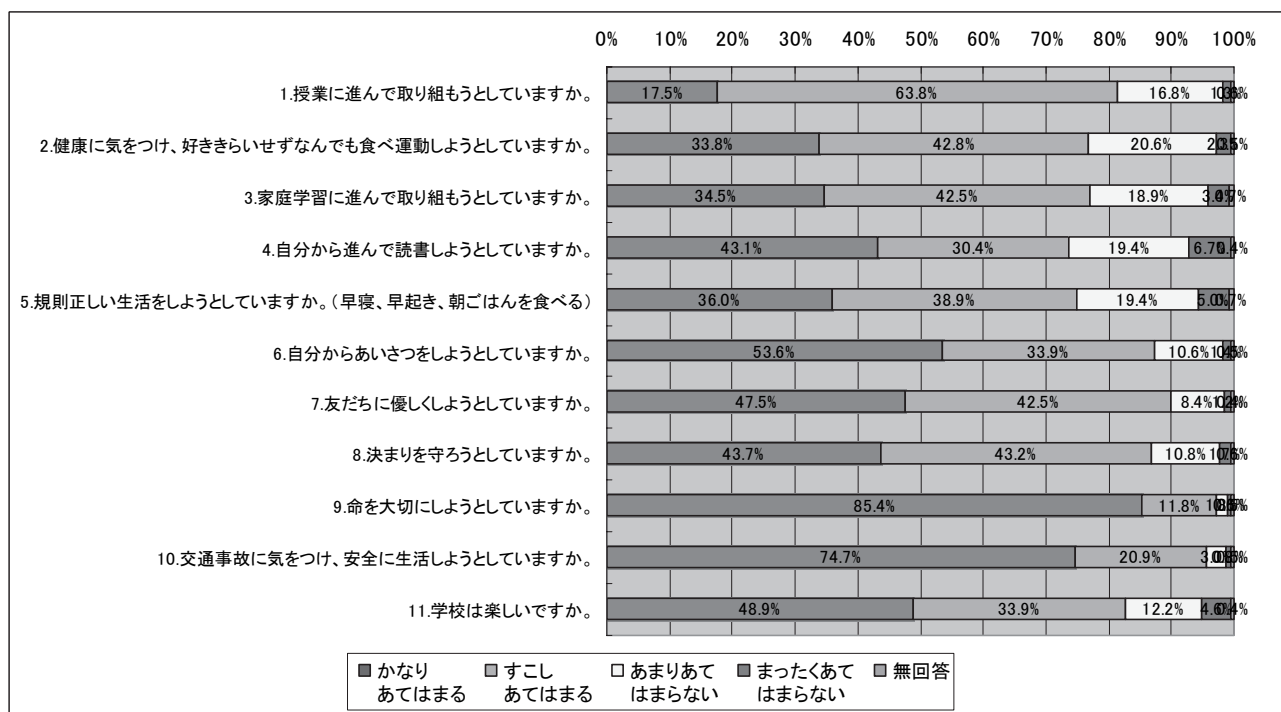
・特になし

【図表 10-2-2：児童生徒：あなたの考えに近いあてはまる考え（平均値）】



【小学校（6校）：児童アンケートの結果】

【図表 10-2-3：児童：あなたの考えに近いあてはまる考え（回答比）】



全 11 項目について、「かなりあてはまる」「あてはまる」と答えた割合が 70%を超えており、また、うち 7 項目について 80%を超えており、非常に高い回答比となっている。町全体とほぼ同様の結果となっている。

特に「かなりあてはまる」と回答した生徒が多く、加重平均値が高かった項目としては、(9)命を大切にしようとしています (9.0 点)、(10)交通事故に気をつけ、安全に生活しています (8.3 点)、(6)

自分からあいさつをします (6.4点), (7)友だちに優しくしています (6.3点), (8)決まりを守ろうと
 しています (5.8点), (11)学校は楽しいです (5.5点), などがあつた。中でも, 9)命を大切にしよう
 としています, は100%に近い児童が「かなりあてはまる」「あてはまる」と回答している。

一方,「あてはまらない」と回答した生徒が多かつた項目に該当するものはなかつたが,棒グラフ(回
 答比)から, (2)健康に気をつけ,好ききらいせずなんでも食べ運動しています, (3)家庭学習に進ん
 で取り組んでいます, (4)自分から進んで読書しています, (5)規則正しい生活をしています, につい
 てはともに約20%の生徒が「あてはまらない」と回答していることもうかがえる。

※ 点 : レーダーチャート(回答の平均値)より参照

※ % : 棒グラフ(回答比)より参照

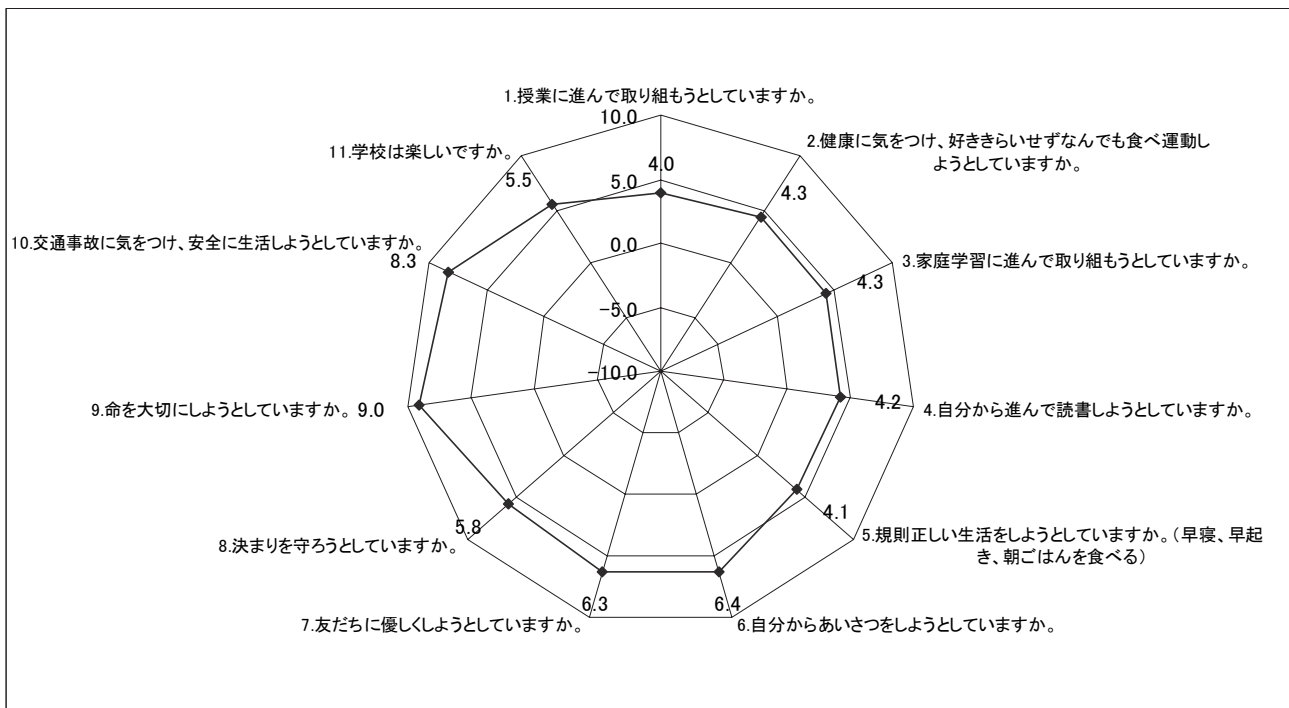
< 「かなりあてはまる」の回答が多い項目(加重平均値が5.0~10.0の項目) >

(9)命を大切にしようとしていますか。	9.0 点
(10)交通事故に気をつけ,安全に生活しようとしていますか。	8.3 点
(6)自分からあいさつをしようとしていますか。	6.4 点
(7)友だちに優しくしようとしていますか。	6.3 点
(8)決まりを守ろうとしていますか。	5.8 点
(11)学校は楽しいですか。	5.5 点

< 「あてはまらない」の回答が多い項目(加重平均値が-10.0~0.0の項目) >

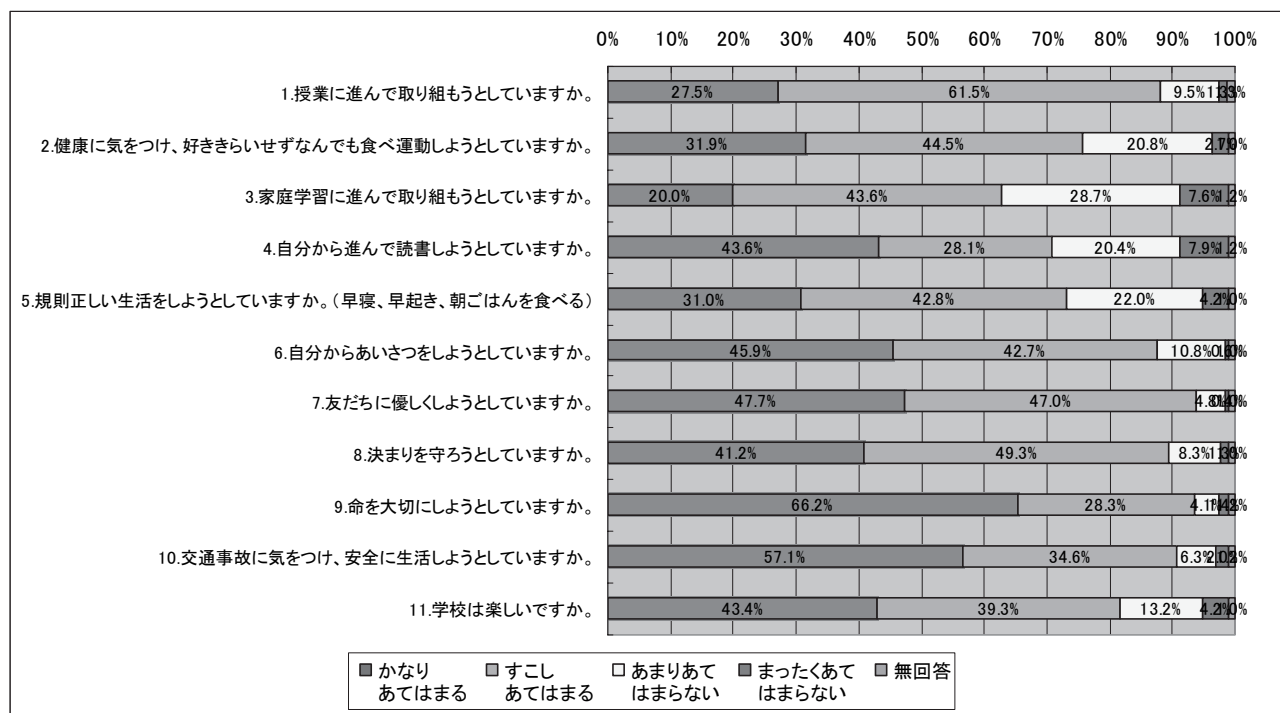
・特になし

[図表 10-2-4 : 児童 : あなたの考えに近いあてはまる考え(平均値)]



【中学校（3校）：生徒アンケートの結果】

〔図表 10-2-5: 生徒: あなたの考えに近いあてはまる考え（回答比）〕



全 11 項目中の 10 項目について、「かなりあてはまる」「あてはまる」と答えた割合が 70%を超えており、比較的高い回答比となっている。

特に「かなりあてはまる」と回答した生徒が多く、加重平均値が高かった項目としては、(9)命を大切にしようとしています (7.7 点)、(10)交通事故に気をつけ、安全に生活しています (6.9 点)、(7)友だちに優しくしています (6.8 点)、(6)自分からあいさつをします (6.1 点)、(8)決まりを守ろうとしています (6.0 点)、(1)授業に進んで取り組もうとしています (5.2 点)、(11)学校は楽しいです (5.2 点)、などがあつた。

一方、「あてはまらない」と回答した生徒が多かった項目に該当するものはなかったが、棒グラフ (回答比) から、(2)健康に気をつけ、好き嫌いせずなんでも食べ運動しています、(3)家庭学習に進んで取り組んでいます、(4)自分から進んで読書しています、(5)規則正しい生活をしています、についてはともに約 20%の生徒が「あてはまらない」と回答していることもうかがえる。

※ 点 : レーダーチャート (回答の平均値) より参照

※ % : 棒グラフ (回答比) より参照

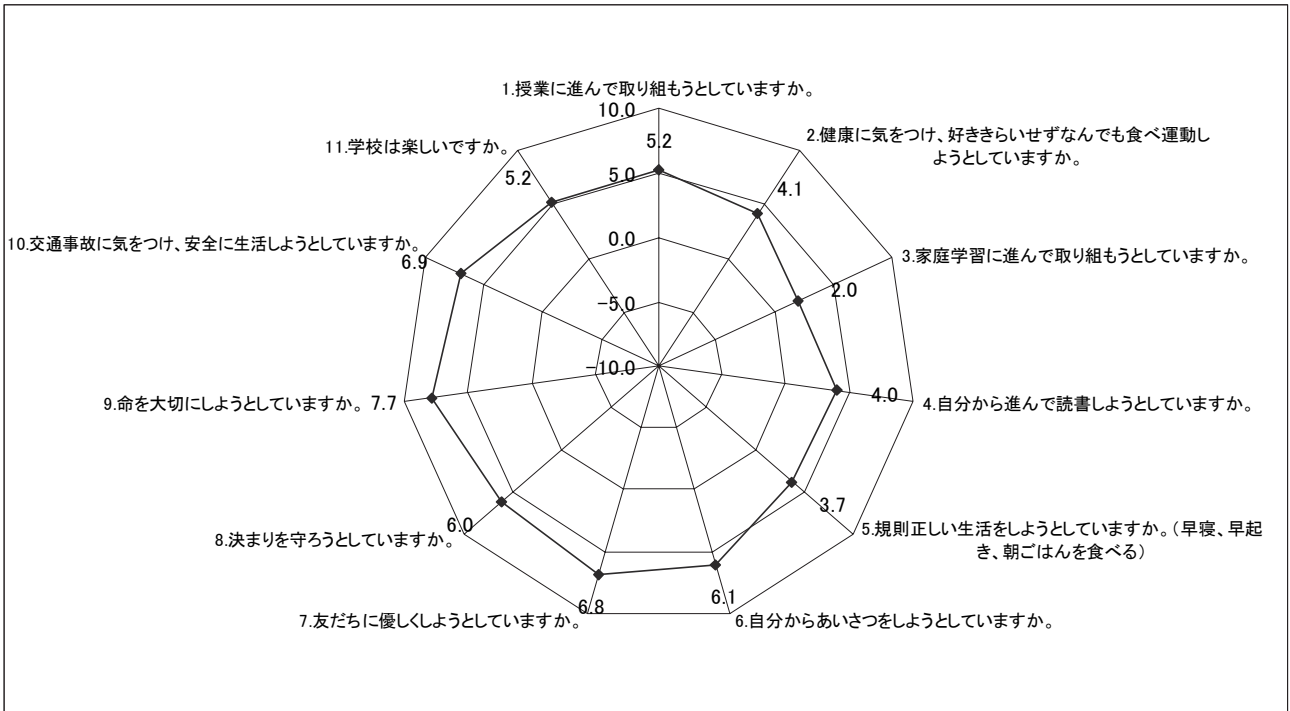
< 「かなりあてはまる」の回答が多い項目 (加重平均値が 5.0~10.0 の項目) >

(9) 命を大切にしようとしていますか。	7.7 点
(10) 交通事故に気をつけ、安全に生活しようとしていますか。	6.9 点
(7) 友だちに優しくしようとしていますか。	6.8 点
(6) 自分からあいさつをしようとしていますか。	6.1 点
(8) 決まりを守ろうとしていますか。	6.0 点
(1) 授業に進んで取り組もうとしていますか。	5.2 点
(11) 学校は楽しいですか。	5.2 点

< 「あてはまらない」の回答が多い項目 (加重平均値が -10.0~0.0 の項目) >

・特になし

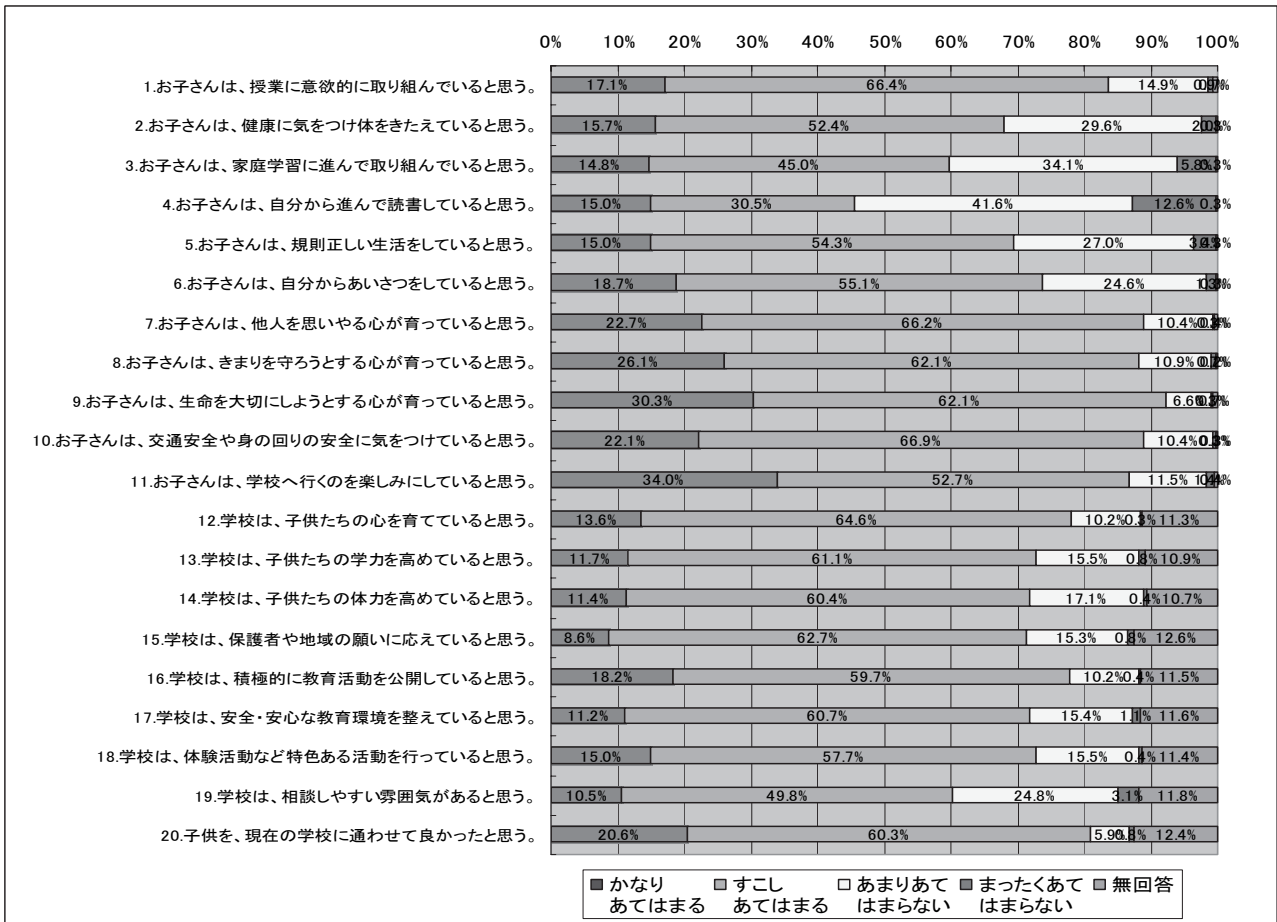
[図表 10-2-6 : 生徒 : あなたの考えに近いあてはまる考え (平均値)]



③ 実践結果-2 : 保護者アンケート

【町全体 (9 校) : 保護者アンケートの結果】

[図表 10-3-1 : 保護者 : お子さんについて / 学校について (回答比)]



まず，“お子さんについて”（質問項目 1～11）に注目すると、評価の高い項目とそうでない項目とが混在していることがうかがえる。例えば、質問項目 7 から 11 では、約 80% の保護者が「とてもそう思う」「そう思う」と高い評価をしている一方で、質問項目 2 から 6 に関しては、約 30～50% の保護者が「そう思わない」「まったくそう思わない」と逆に厳しい評価をしている。ここからは、読書や家庭学習への自発的な姿勢、体づくりや規則正しい生活などの健康面に対する意識などについて、保護者が不安や悩みを抱えていることがうかがえる。

次に，“学校について”（質問項目 12～20）に注目すると、全般的に同一の傾向が見られ、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した保護者が 70～80% のものが多かった。一方、学校への相談のしやすさという点だけがやや低い傾向となった。

各項目について具体的に見てみると、特に「とてもそう思う」と回答した保護者が多く、加重平均値が高かった項目としては、(9)お子さんは、生命を大切にしようとする心が育っていると思う (5.8 点)、(11)お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしていると思う (5.3 点)、(8)お子さんは、きまりを守ろうとする心が育っていると思う (5.1 点)、(7)お子さんは、他人を思いやる心が育っていると思う (5.0 点)、(10)お子さんは、交通安全や身の回りの安全に気をつけていると思う (5.0 点)、などがあつた。一方、「そう思わない」と回答した保護者が多かった項目として、(4)お子さんは、自分から進んで読書していると思う (-0.3 点)、があつた。

※ 点 : レーダーチャート (回答の平均値) より参照

※ % : 棒グラフ (回答比) より参照

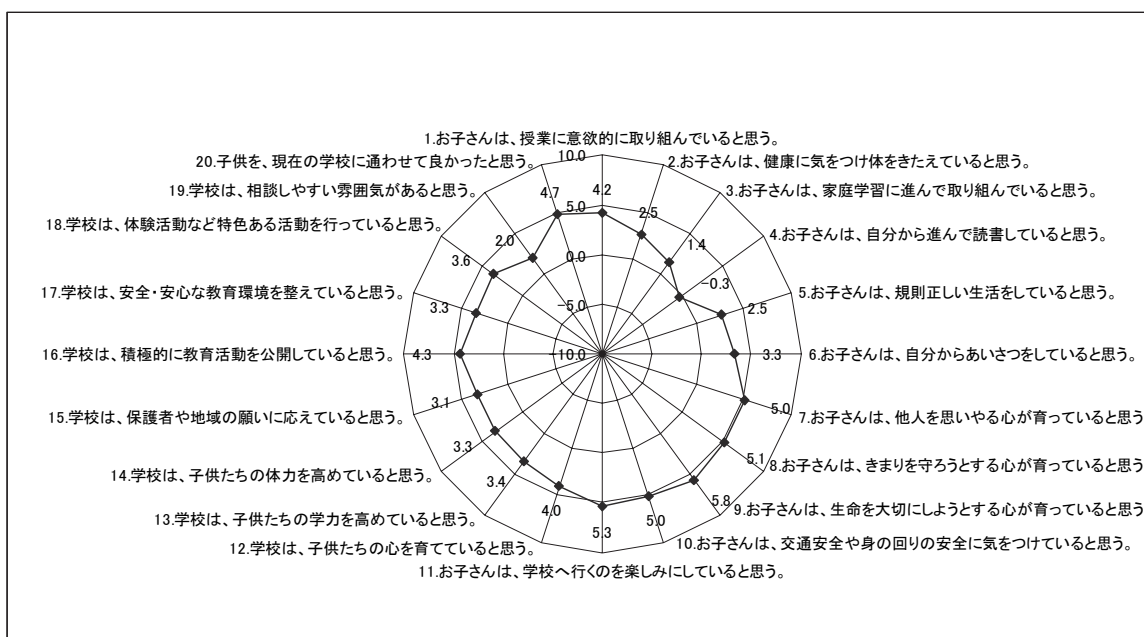
< 「とてもそう思う」の回答が多い項目 (加重平均値が 5.0～10.0 の項目) >

(9)お子さんは、生命を大切にしようとする心が育っていると思う。	5.8 点
(11)お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしていると思う。	5.3 点
(8)お子さんは、きまりを守ろうとする心が育っていると思う。	5.1 点
(7)お子さんは、他人を思いやる心が育っていると思う。	5.0 点
(10)お子さんは、交通安全や身の回りの安全に気をつけていると思う。	5.0 点

< 「そう思わない」の回答が多い項目 (加重平均値が -10.0～0.0 の項目) >

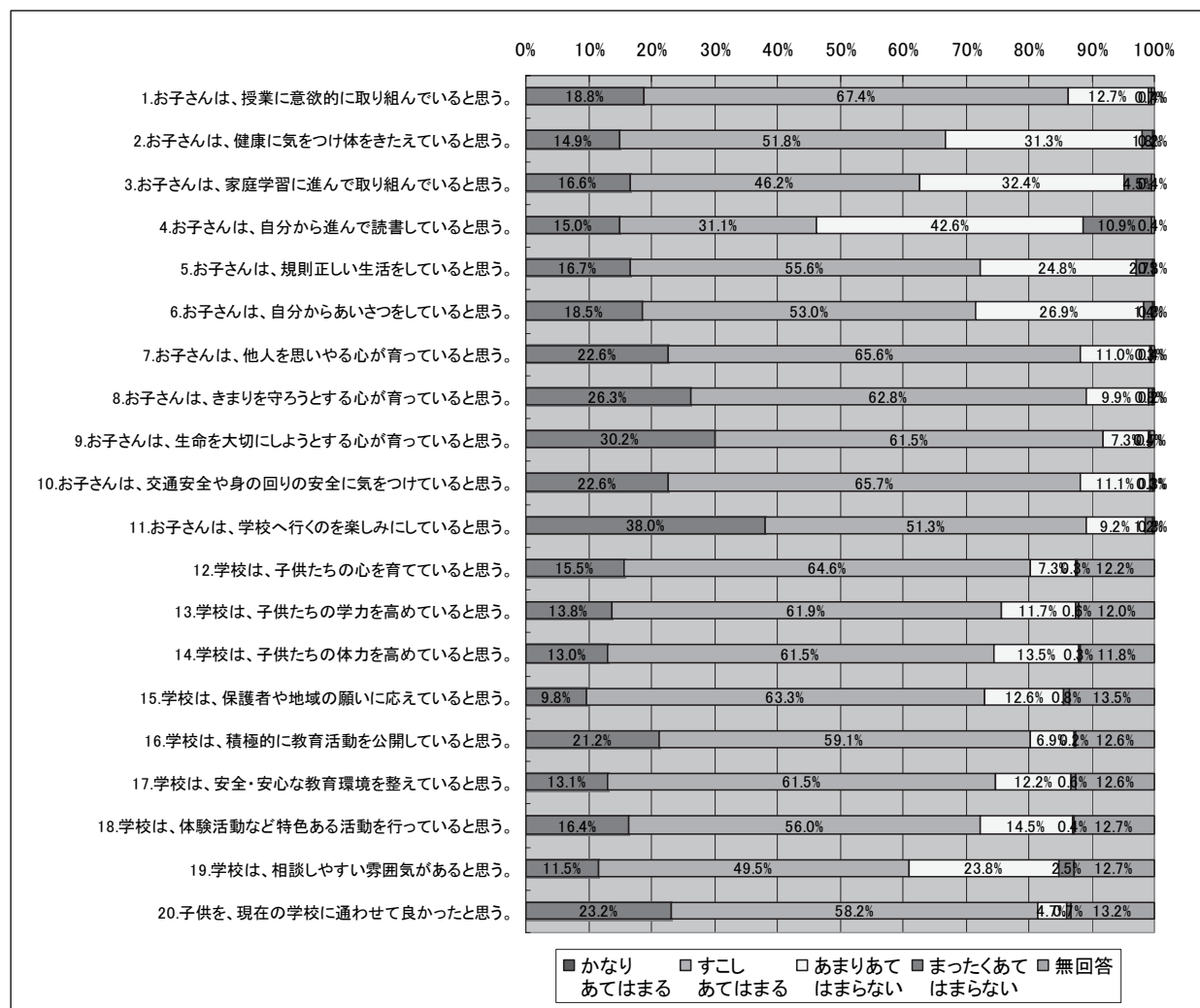
(4)お子さんは、自分から進んで読書していると思う。	-0.3 点
----------------------------	--------

[図表 10-3-2 : 保護者 : お子さんについて / 学校について (平均値)]



【小学校（6校）：保護者アンケートの結果】

〔図表 10-3-3：保護者：小学校：お子さんについて／学校について（回答比）〕



全項目を総じて見ると、町全体とほぼ同様の傾向を示していることがわかる。つまり、“お子さんについて”では、評価の高い項目とそうでない項目とが混在しており、特に、読書・家庭学習や健康面に関する項目の評価が低い傾向が見られる。

一方、“学校について”では、ほぼ全ての項目において「とてもそう思う」「そう思う」と回答している保護者が70～80%であること、その中で学校への相談のしやすさはやや低めの結果となっていることが挙げられる。

各項目について具体的に見てみると、特に「とてもそう思う」と回答した保護者が多く、加重平均値が高かった項目としては、(11)お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしていると思う (5.8点)、(9)お子さんは、生命を大切にしようとする心が育っていると思う (5.7点)、(8)お子さんは、きまりを守ろうとする心が育っていると思う (5.2点)、(7)お子さんは、他人を思いやる心が育っていると思う (5.0点)、(10)お子さんは、交通安全や身の回りの安全に気をつけていると思う (5.0点)、などがあつた。

一方、「そう思わない」と回答した保護者が多かった項目として、(4)お子さんは、自分から進んで読書していると思う (-0.2点)、があつた。

※ 点 : レーダーチャート (回答の平均値) より参照

※ % : 棒グラフ (回答比) より参照

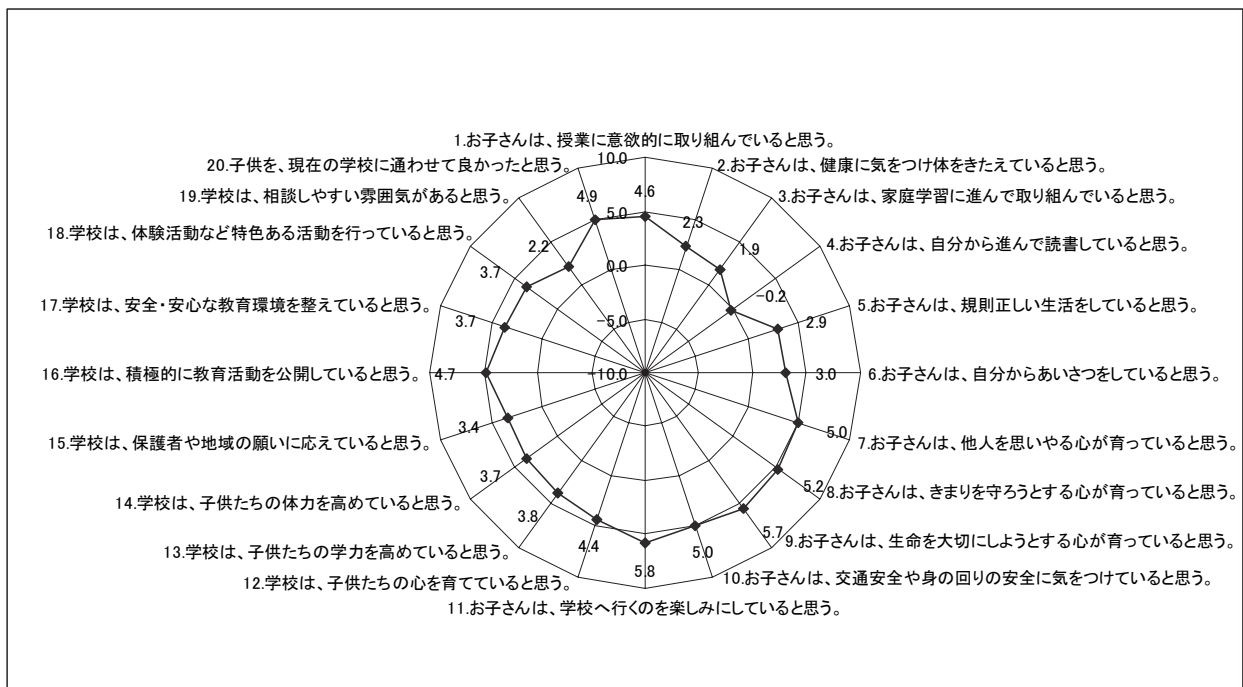
< 「とてもそう思う」の回答が多い項目（加重平均値が5.0～10.0の項目） >

(11)お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしていると思う。	5.8 点
(9)お子さんは、生命を大切にしようとする心が育っていると思う。	5.7 点
(8)お子さんは、きまりを守ろうとする心が育っていると思う。	5.2 点
(7)お子さんは、他人を思いやる心が育っていると思う。	5.0 点
(10)お子さんは、交通安全や身の回りの安全に気をつけていると思う。	5.0 点

< 「そう思わない」の回答が多い項目（加重平均値が-10.0～0.0の項目） >

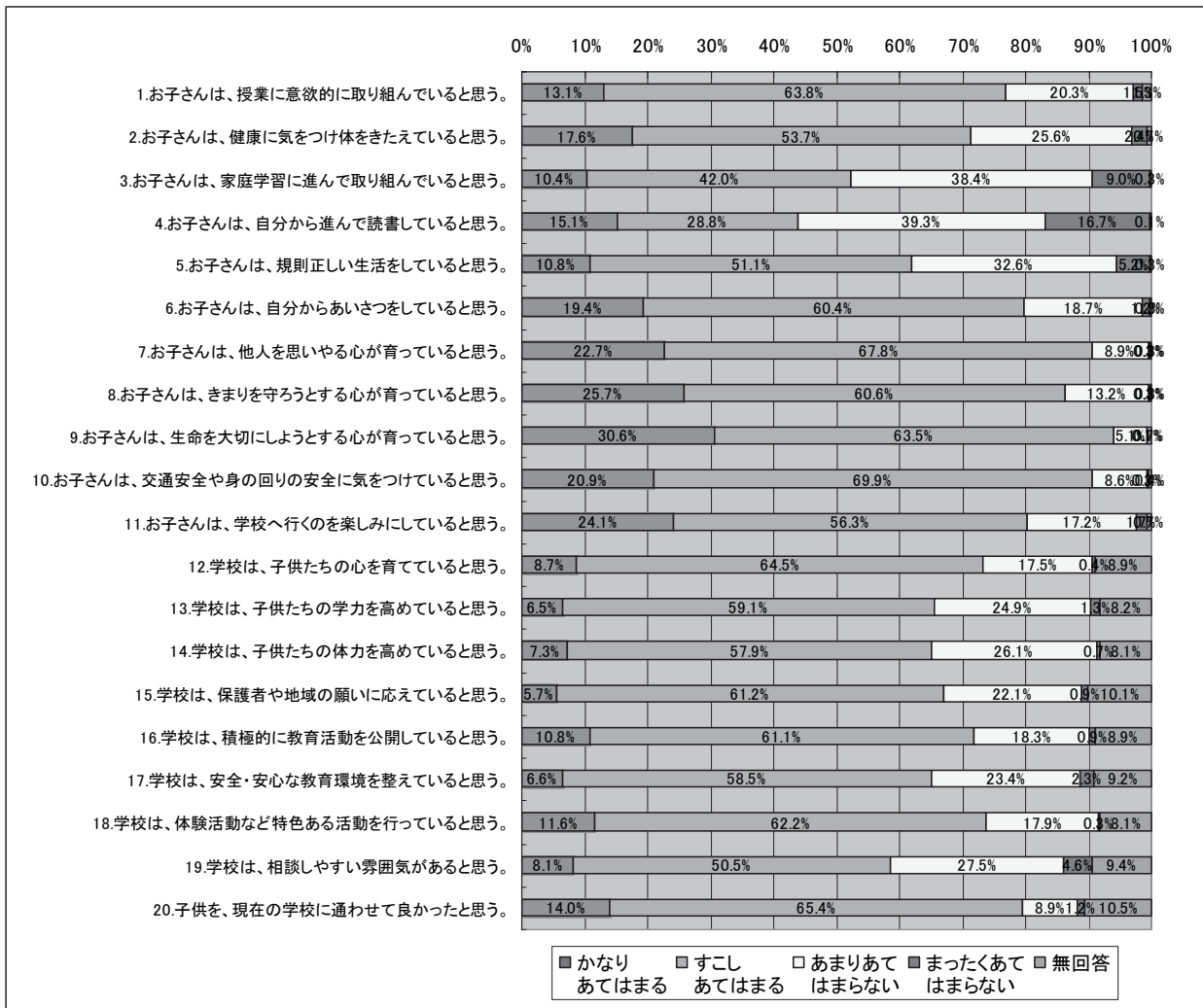
(4)お子さんは、自分から進んで読書していると思う。	-0.2 点
----------------------------	--------

[図表 10-3-4：保護者_小学校：お子さんについて/学校について（平均値）]



【中学校（3校）：保護者アンケートの結果】

〔図表 10-3-5：保護者_中学校：お子さんについて／学校について（回答比）〕



全項目を総じて見ると、“お子さんについて”は町全体とほぼ同様の傾向を示していることがうかがえる。つまり、評価の高い項目とそうでない項目とが混在しており、読書・家庭学習や健康面に関する項目の評価が低い傾向が見られる。特に読書・家庭学習については、「そう思わない」「まったくそう思わない」と回答している保護者の割合が50%近い数値を示している。

一方、“学校について”では、ほぼ全ての項目において「とてもそう思う」「そう思う」と回答している保護者が60～70%となっている。小学校と比較するとやや低い。学校への相談のしやすさは特にやや低めの結果となっているが、一方で、子どもを現在の学校に通わせてよかったかという質問に対しては約80%の保護者が「そう思う」と回答していることもわかる。

各項目について具体的に見てみると、特に「とてもそう思う」と回答した保護者が多く、加重平均値が高かった項目としては、(9)お子さんは、生命を大切にしようとする心が育っていると思う (6.0点)、(7)お子さんは、他人を思いやる心が育っていると思う (5.2点)、(10)お子さんは、交通安全や身の回りの安全に気をつけていると思う (5.1点)、などがあつた。

一方、「そう思わない」と回答した保護者が多かった項目として、(4)お子さんは、自分から進んで読書していると思う (-0.7点)、があつた。

※ 点 : レーダーチャート (回答の平均値) より参照

※ % : 棒グラフ (回答比) より参照

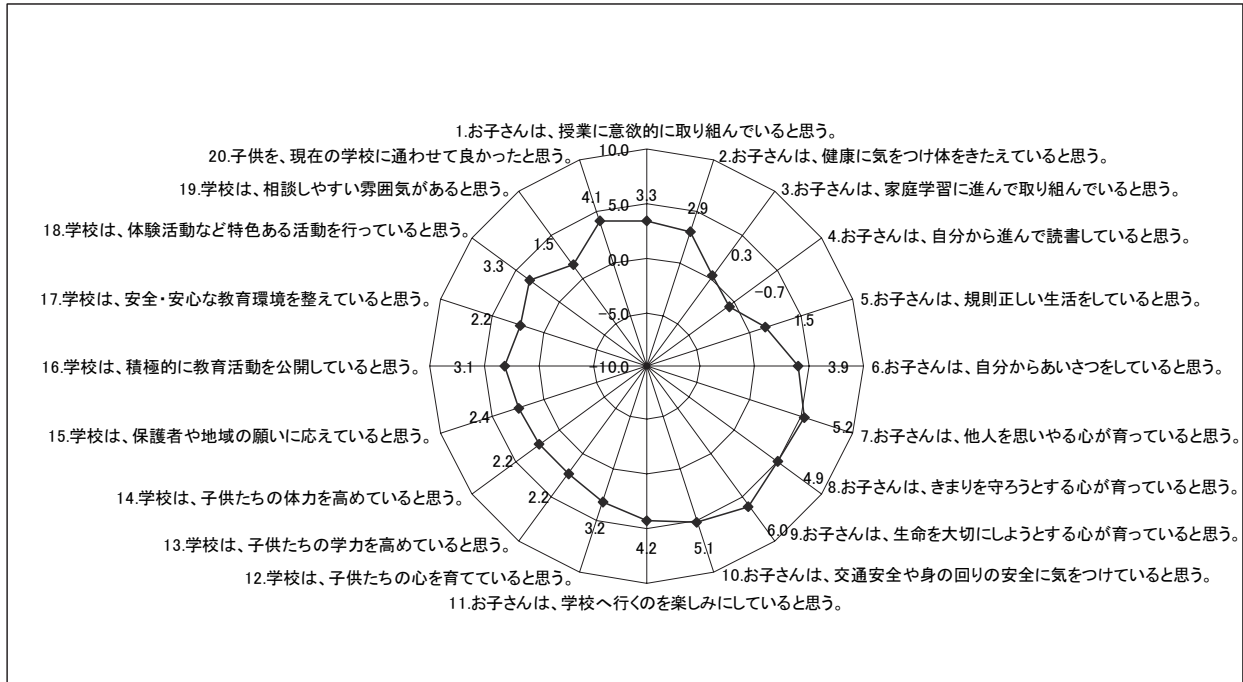
< 「とてもそう思う」の回答が多い項目（加重平均値が5.0～10.0の項目） >

(9)お子さんは、生命を大切にしようとする心が育っていると思う。	6.0 点
(7)お子さんは、他人を思いやる心が育っていると思う。	5.2 点
(10)お子さんは、交通安全や身の回りの安全に気をつけていると思う。	5.1 点

< 「そう思わない」の回答が多い項目（加重平均値が-10.0～0.0の項目） >

(4)お子さんは、自分から進んで読書していると思う。	-0.7 点
----------------------------	--------

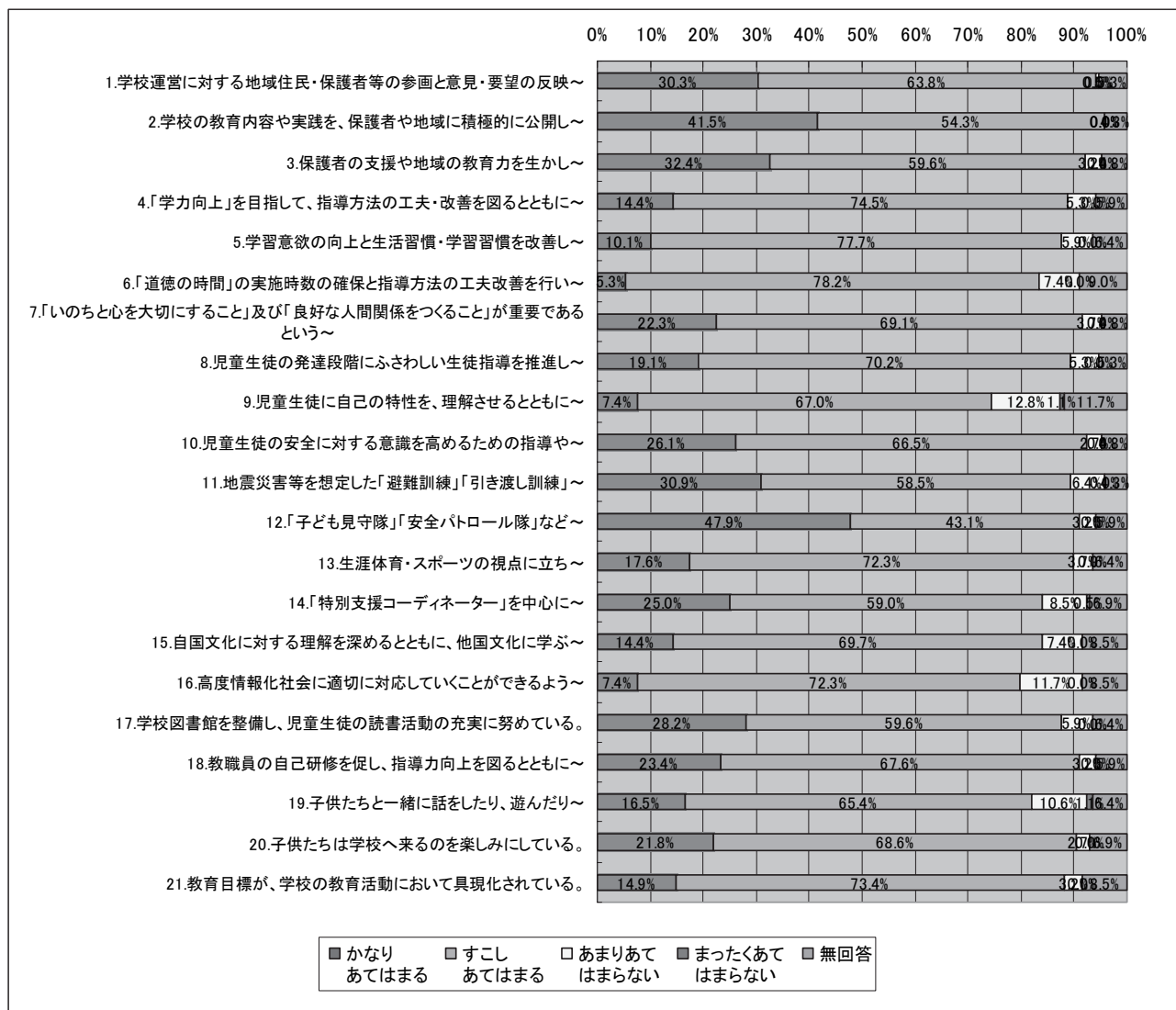
[図表 10-3-6：保護者_中学校：お子さんについて／学校について（平均値）]



④ 実践結果-3：自己評価

【町全体（9校）：自己評価の結果】

【図表 10-4-1：教職員：自己評価（回答比）】



全般的に高い評価傾向となっている。「大変良い」「良い」を合わせた割合が、21項目中19項目で80%を超えている。

項目別に見てみると、(2)学校の教育内容や実践を、保護者や地域に積極的に公開し、開かれた学校づくりに努めている(6.9点)、(1)学校運営に対する地域住民・保護者等の参画と意見・要望の反映を図り、信頼される学校づくりに努めている(6.2点)の平均値が高い傾向にあり、地域との協働による学校づくりへの自己評価が特に高いことがうかがえる。他にも、(12)「子ども見守隊」「安全パトロール隊」など地域の支援を受けて、通学路の安全確保や地域の巡回などを行い、事故や事件の被害を未然に防止している(6.8点)、(11)地震災害等を想定した「避難訓練」「引き渡し訓練」「防災教室」を実施している(5.7点)、などが高い評価結果となっている。

一方、「課題がある」とする項目に該当するものはなかった。

※ 点 : レーダーチャート(回答の平均値)より参照

※ % : 棒グラフ(回答比)より参照

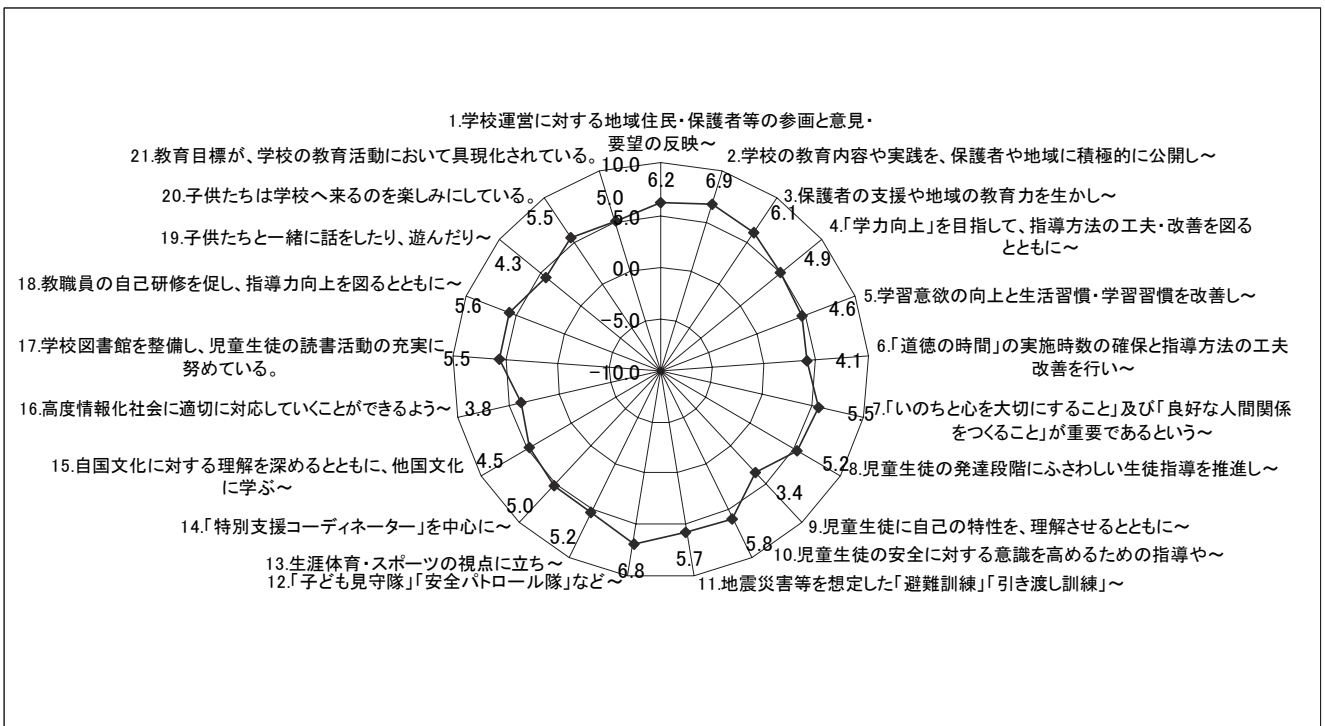
< 「大変良い」の回答が多い項目（加重平均値が5.0～10.0の項目） >

(2)学校の教育内容や実践を、保護者や地域に積極的に公開し～	6.9 点
(12)「子ども見守隊」「安全パトロール隊」など～	6.8 点
(1)学校運営に対する地域住民・保護者等の参画と意見・要望の反映～	6.2 点
(3)保護者の支援や地域の教育力を生かし～	6.1 点
(10)児童生徒の安全に対する意識を高めるための指導や～	5.8 点
(11)地震災害等を想定した「避難訓練」「引き渡し訓練」～	5.7 点
(18)教職員の自己研修を促し、指導力向上を図るとともに～	5.6 点
(17)学校図書館を整備し、児童生徒の読書活動の充実に努めている。	5.5 点
(20)子供たちは学校へ来るのを楽しみにしている。	5.5 点
(7)「いのちと心を大切にすること」及び「良好な人間関係をつくること」が重要であるという～	5.5 点
(8)児童生徒の発達段階にふさわしい生徒指導を推進し～	5.2 点
(13)生涯体育・スポーツの視点に立ち～	5.2 点
(14)「特別支援コーディネーター」を中心に～	5.0 点
(21)教育目標が、学校の教育活動において具現化されている。	5.0 点

< 「課題がある」の回答が多い項目（加重平均値が-10.0～0.0の項目） >

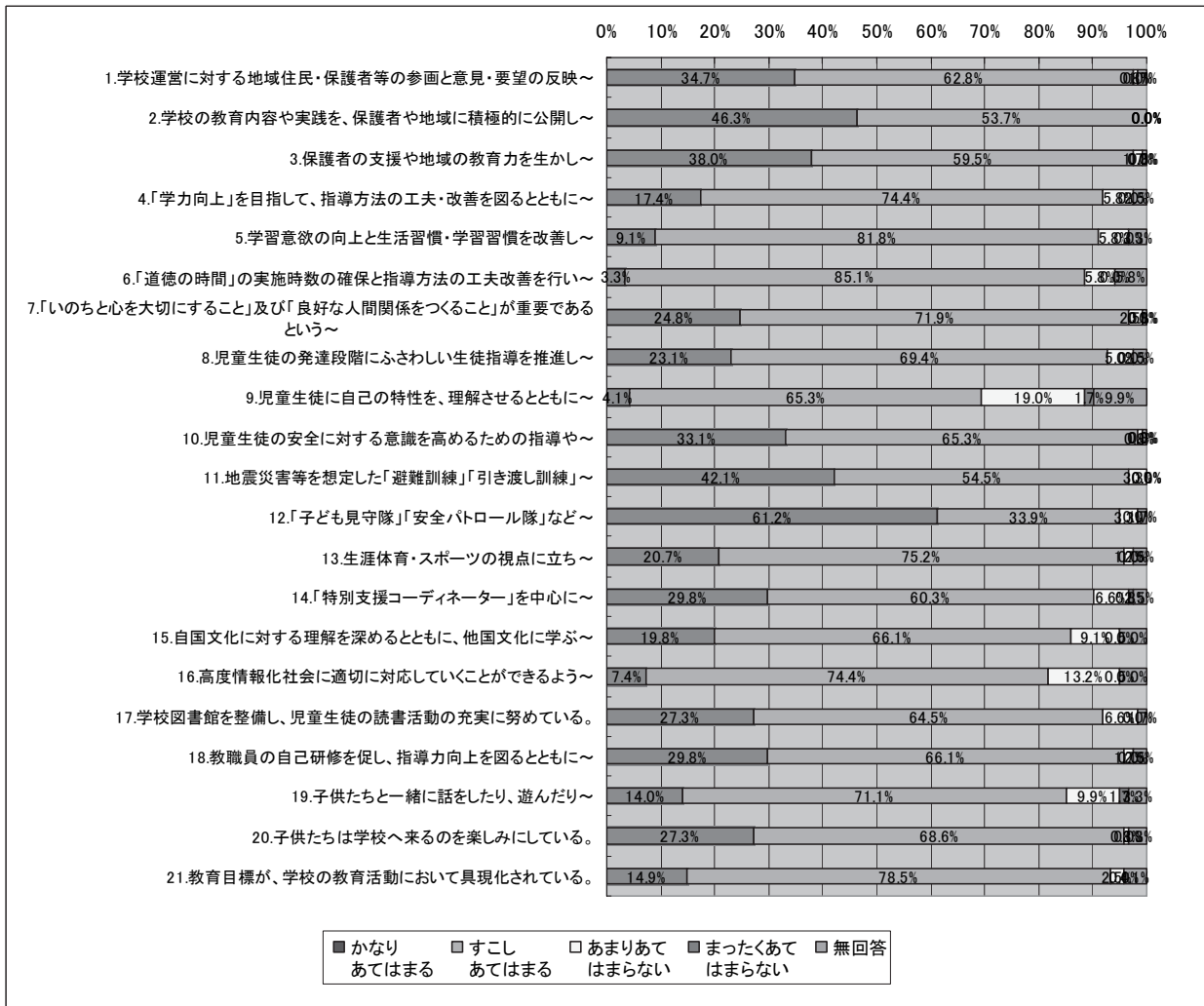
・特になし

[図表 10-4-2 : 教職員 : 自己評価 (平均値)]



【小学校（6校）：自己評価の結果】

【図表 10-4-3：教職員_小学校：自己評価（回答比）】



「大変良い」「良い」を合わせた割合が、21項目中16項目で90%を超えている。全般的には町全体と同様の傾向を示しているが、より高い評価傾向となっている。

項目別に見てみると、(2)学校の教育内容や実践を、保護者や地域に積極的に公開し、開かれた学校づくりに努めている(7.3点)、(1)学校運営に対する地域住民・保護者等の参画と意見・要望の反映を図り、信頼される学校づくりに努めている(6.6点)の平均値が高い傾向にあり、地域との協働による学校づくりへの自己評価が特に高いことがうかがえる。他にも、(12)「子ども見守隊」「安全パトロール隊」など地域の支援を受けて、通学路の安全確保や地域の巡回などを行い、事故や事件の被害を未然に防止している(7.6点)、(11)地震災害等を想定した「避難訓練」「引き渡し訓練」「防災教室」を実施している(6.8点)、などが高い評価結果となっている。

一方、「課題がある」とする項目に該当するものはなかったが、棒グラフより、(9)児童生徒に自己の特性を理解させるとともに、能力・適性や興味・関心等に基づいて将来の生き方を考えさせるキャリア教育の充実に努めている、が他の項目と比べてやや低い評価となっている。

※ 点 : レーダーチャート(回答の平均値)より参照

※ % : 棒グラフ(回答比)より参照

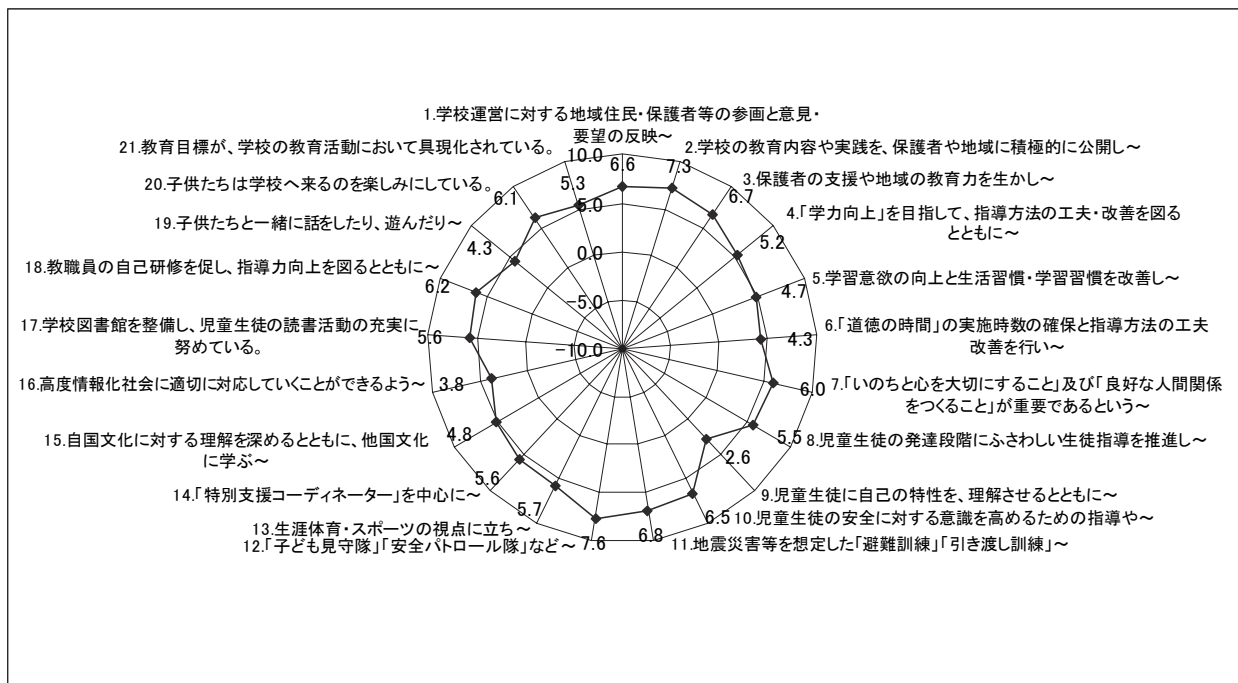
< 「大変良い」の回答が多い項目（加重平均値が5.0～10.0の項目） >

(12)「子ども見守隊」「安全パトロール隊」など～	7.6 点
(2)学校の教育内容や実践を、保護者や地域に積極的に公開し～	7.3 点
(11)地震災害等を想定した「避難訓練」「引き渡し訓練」～	6.8 点
(3)保護者の支援や地域の教育力を生かし～	6.7 点
(1)学校運営に対する地域住民・保護者等の参画と意見・要望の反映～	6.6 点
(10)児童生徒の安全に対する意識を高めるための指導や～	6.5 点
(18)教職員の自己研修を促し、指導力向上を図るとともに～	6.2 点
(20)子供たちは学校へ来るのを楽しみにしている。	6.1 点
(7)「いのちと心を大切にすること」及び「良好な人間関係をつくること」が重要であるという～	6.0 点
(13)生涯体育・スポーツの視点に立ち～	5.7 点
(14)「特別支援コーディネーター」を中心に～	5.6 点
(17)学校図書館を整備し、児童生徒の読書活動の充実に努めている。	5.6 点
(8)児童生徒の発達段階にふさわしい生徒指導を推進し～	5.5 点
(21)教育目標が、学校の教育活動において具現化されている。	5.3 点
(4)「学力向上」を目指して、指導方法の工夫・改善を図るとともに～	5.2 点

< 「課題がある」の回答が多い項目（加重平均値が-10.0～0.0の項目） >

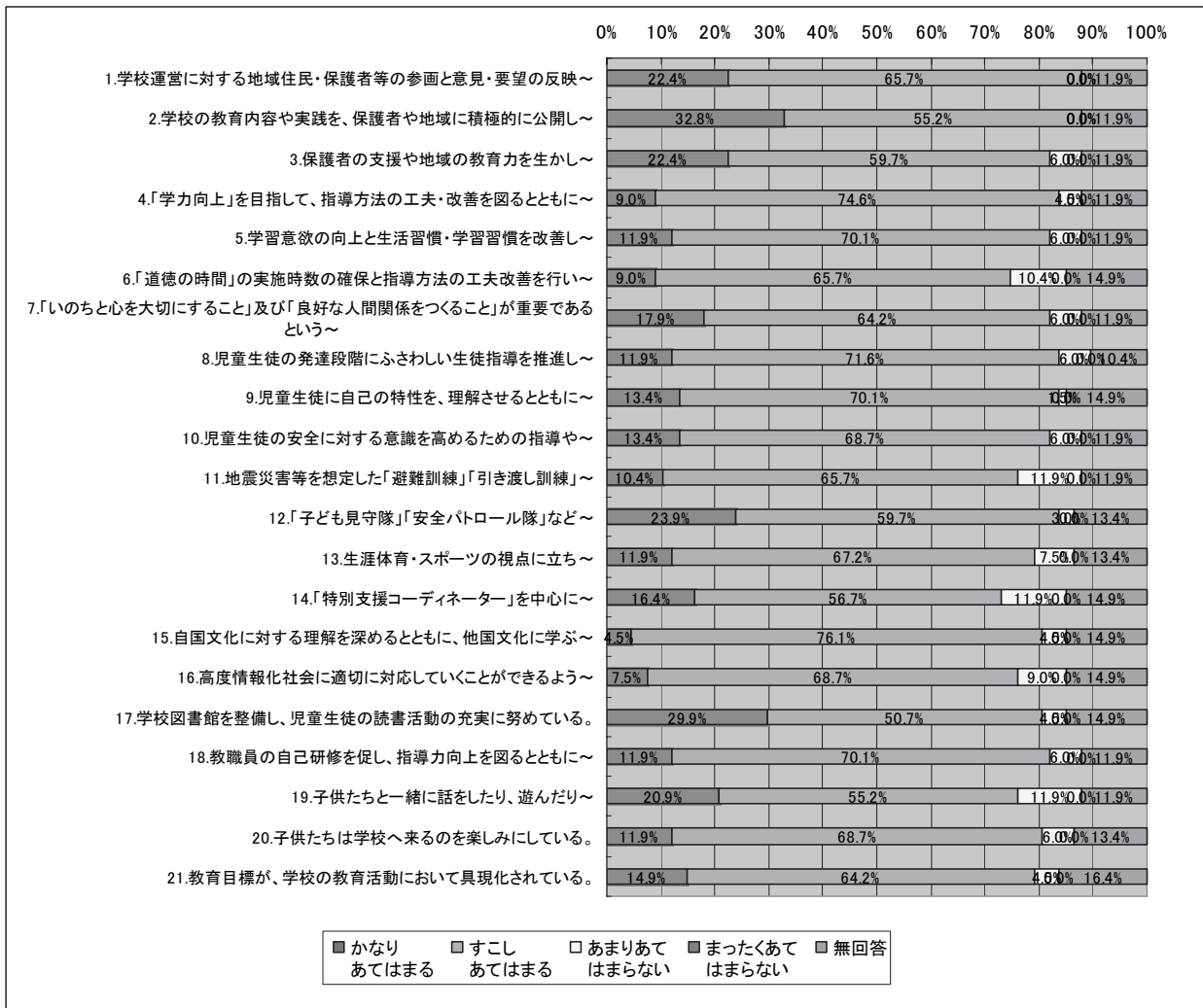
・特になし

[図表 10-4-4 : 教職員_小学校 : 自己評価 (平均値)]



【中学校（3校）：自己評価の結果】

【図表 10-4-5：教職員_中学校：自己評価（回答比）】



全般的に高い評価傾向となっている。「大変良い」「良い」を合わせた割合が、21の全ての項目で70%を超えており、うち14項目で80%を超えている。

項目別に見てみると、(2)学校の教育内容や実践を、保護者や地域に積極的に公開し、開かれた学校づくりに努めている (6.0点)、(1)学校運営に対する地域住民・保護者等の参画と意見・要望の反映を図り、信頼される学校づくりに努めている (5.5点) の平均値が高い傾向にあり、地域との協働による学校づくりへの自己評価が特に高いことがうかがえる。他にも、(17)学校図書館を整備し、児童生徒の読書活動の充実に努めている (5.3点)、(12)「子ども見守隊」「安全パトロール隊」など地域の支援を受けて、通学路の安全確保や地域の巡回などを行い、事故や事件の被害を未然に防止している (5.2点)、などが高い評価結果となっている。

一方、「課題がある」という回答が多かった項目は特に見られなかった。

※ 点 : レーダーチャート (回答の平均値) より参照

※ % : 棒グラフ (回答比) より参照

< 「大変良い」の回答が多い項目 (加重平均値が5.0～10.0の項目) >

(2)学校の教育内容や実践を、保護者や地域に積極的に公開し、開かれた学校づくりに努めている。

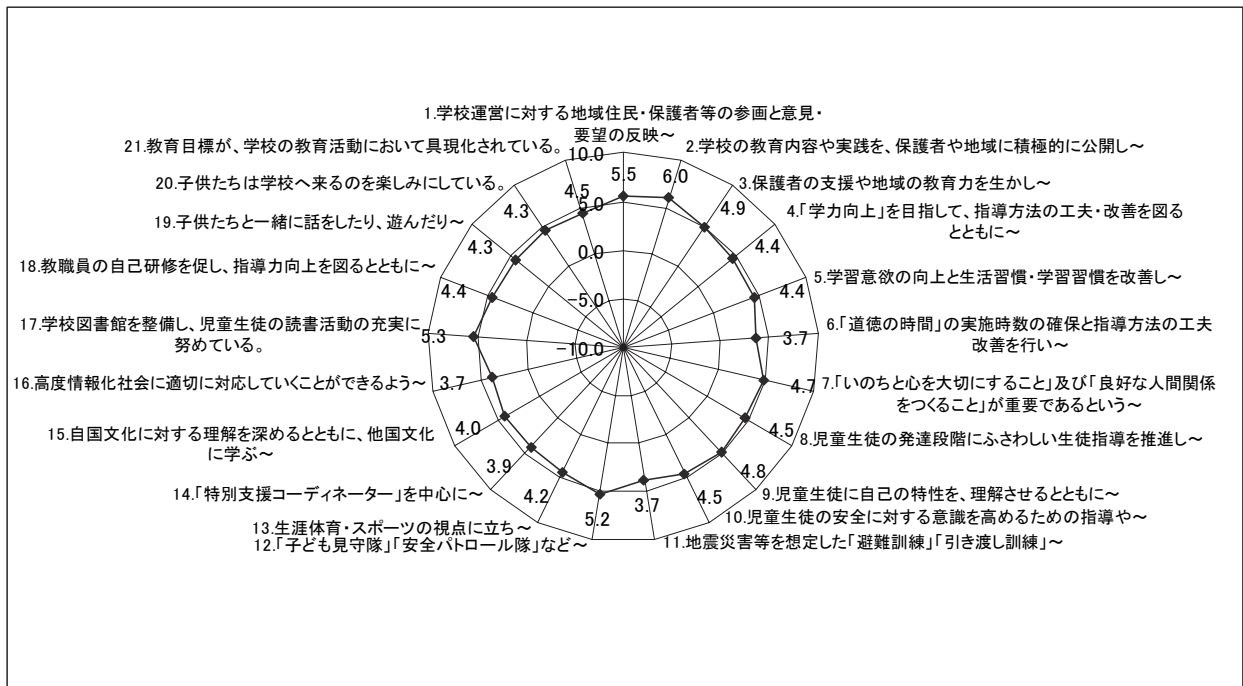
6.0 点

(1)学校運営に対する地域住民・保護者等の参画と意見・要望の反映を図り、信頼される学校づくりに努めている。	5.5 点
(17)学校図書館を整備し、児童生徒の読書活動の充実に努めている。	5.3 点
(12)「子ども見守隊」「安全パトロール隊」など地域の支援を受けて、通学路の安全確保や地域の巡回などを行い、事故や事件の被害を未然に防止している。	5.2 点

< 「課題がある」の回答が多い項目（加重平均値が-10.0~0.0の項目） >

・特になし

[図表 10-4-6:教職員_中学校:自己評価 (平均値)]



⑤ 比較分析-1：児童生徒と保護者の共通質問項目の相関

児童アンケートの全11項目と、保護者アンケートのお子さんに関する11項目はそれぞれ対応しているため比較が可能である。ここから児童生徒と保護者の意識差を見ることができる。

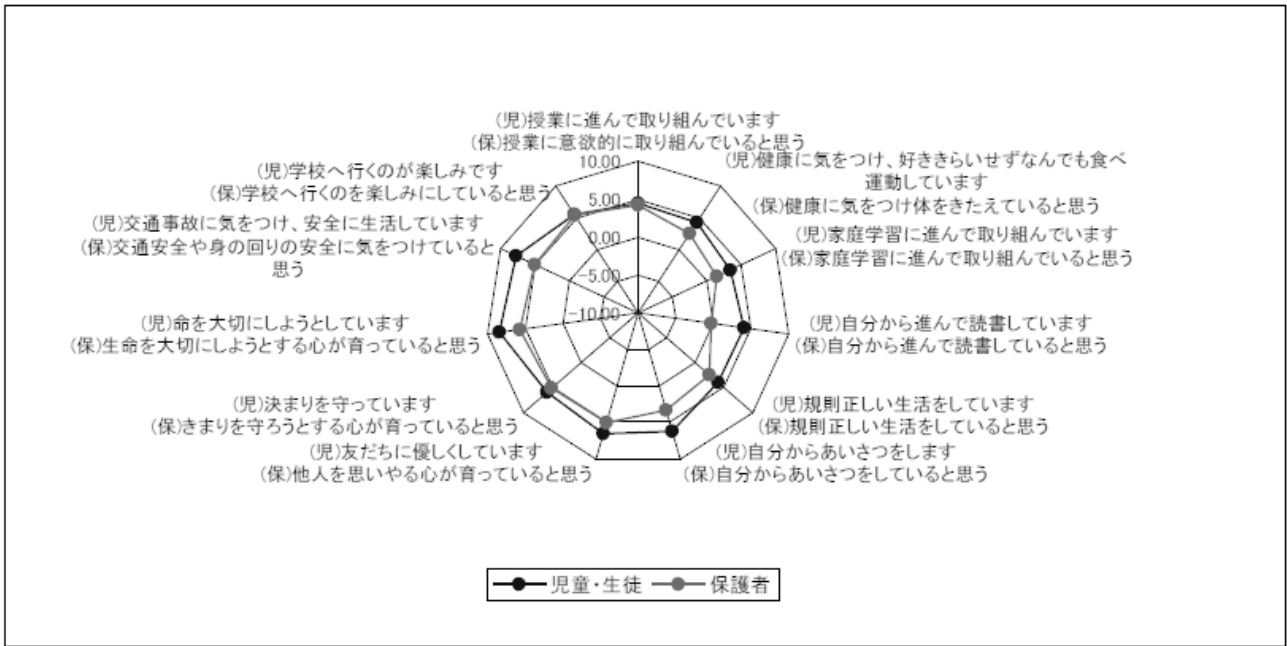
以下、町全体・小学校・中学校のそれぞれの比較結果について報告する。

【町全体（9校）：児童生徒・保護者の回答比較】

全般的に、保護者より児童生徒の方が高い評価をしていることがうかがえる。保護者より児童生徒の方が評価が特に高い項目としては、「家庭学習に進んで取り組んでいる」「自分から進んで読書している」「自分からあいさつしている」などが挙げられる。特に前者2項目については、自主的に学習する態度に関する項目であり、その部分に保護者が不安を感じている傾向とも見てとれる。また、「交通安全」に関する項目や「命を大切にしている」についても両者の評価に差が現れている。

一方、児童生徒と保護者がほぼ同評価をしている項目としては、「学校へ行くのが楽しみである」「授業に意欲的に取り組んでいる」などが挙げられる。

[図表 10-5-1 : 児童と保護者の相関]

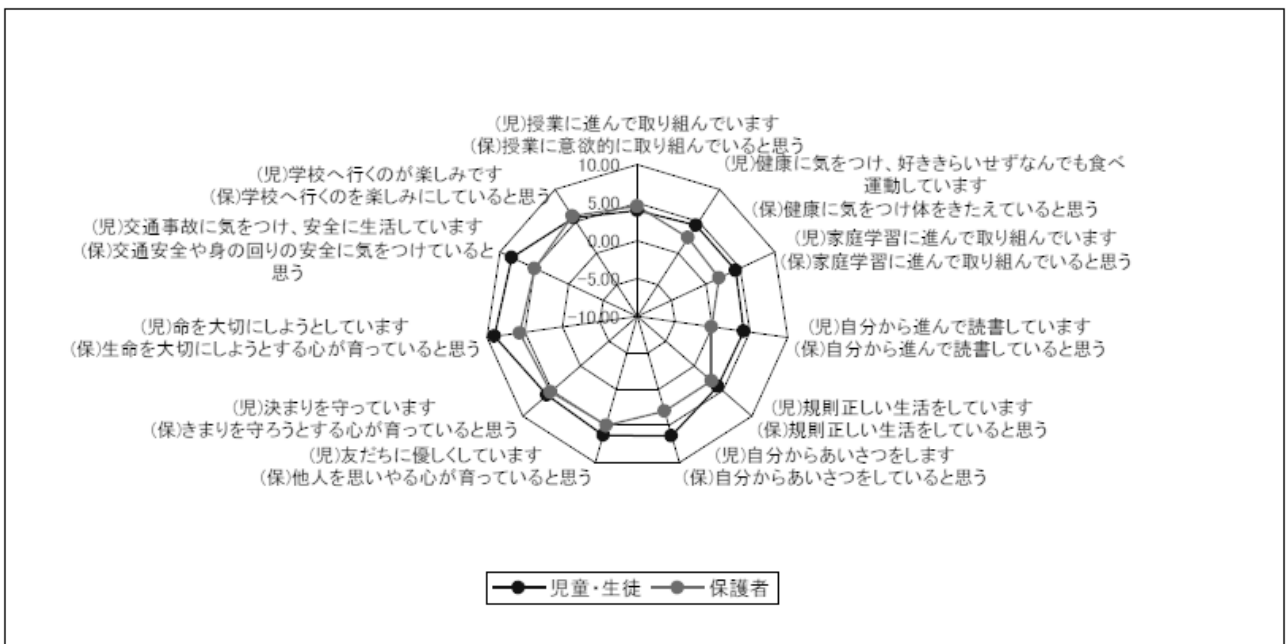


【小学校 (6校) : 児童生徒・保護者の回答比較】

町全体とほぼ同様の傾向である。まず、全般的に児童の方が高い評価をしている。特に、「自分から進んで読書している」「自分からあいさつしている」「命を大切にしている」や「交通安全」に関する項目で、児童と保護者の意識差が見られている。

一方、児童生徒と保護者がほぼ同評価をしている項目として、「学校へ行くのが楽しみである」「授業に意欲的に取り組んでいる」などが挙げられ、後者は保護者の方がやや上回っている。

[図表 10-5-2 : 小学校 : 児童と保護者の相関]

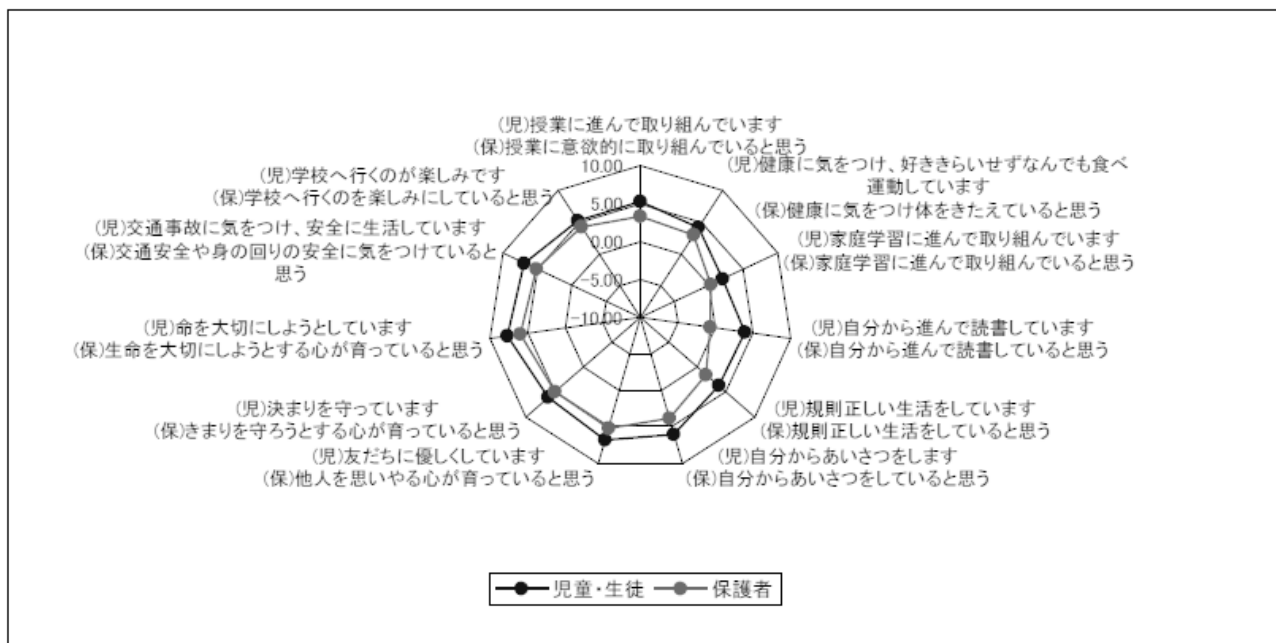


【中学校（3校）：児童生徒・保護者の回答比較】

全般的に保護者より生徒の方の評価が高いことがうかがえる。特に、「自分から進んで読書をしている」についてその傾向が顕著に表れている。「規則正しい生活をしている」「自分からあいさつをしている」などでもやや差が見られる。

一方、「学校へ行くのが楽しみである」は児童生徒・保護者ともほぼ同じ評価を示している。

[図表 10-5-3：中学校：児童と保護者の相関]



⑥ 比較分析-2：教職員と保護者の共通質問項目の相関

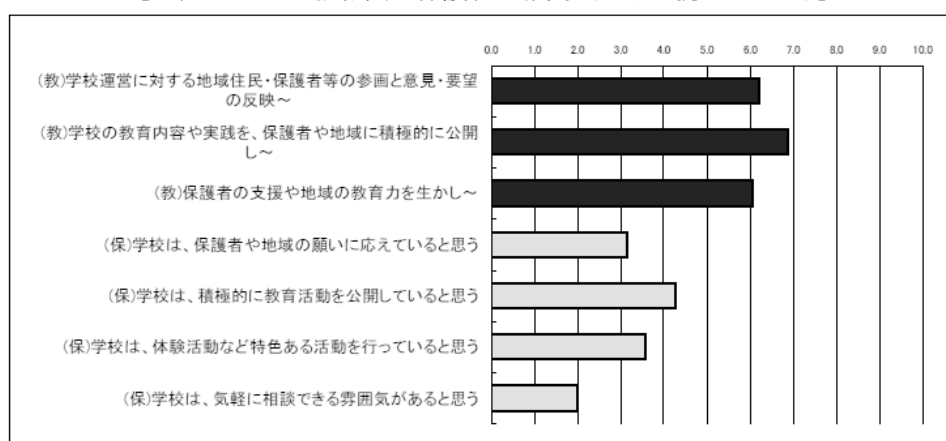
自己評価と保護者アンケートにも共通性のある質問項目がいくつかあり、それらを比較することで教職員と保護者の意識差を見ることができる。

比較可能な項目は、「地域連携について」「学力向上について」「心の教育・道徳教育について」「安全・安心について」「体力向上について」の大きく5項目である。

以下、町全体・小学校・中学校のそれぞれの比較結果について報告する。

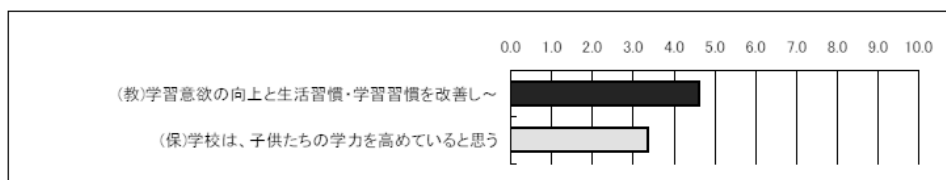
【町全体（9校）：教職員・保護者の回答比較】

[図表 10-5-4：教職員と保護者の相関（地域連携について）]



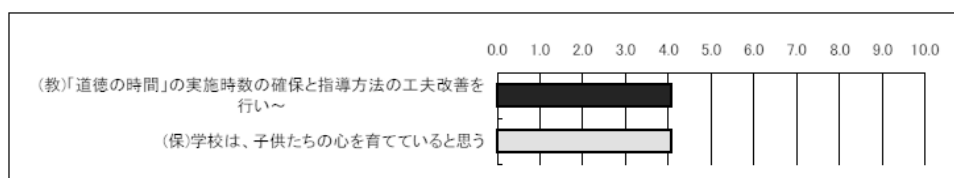
- ・ 一般的に教職員の方が高い評価となっている。
- ・ 保護者の回答について詳しく見てみると、「教育活動の公開」については比較的高く評価している一方で、「気軽に相談できる」という点ではやや低い結果となっている。

[図表 10-5-5：教職員と保護者の相関（学力向上について）]



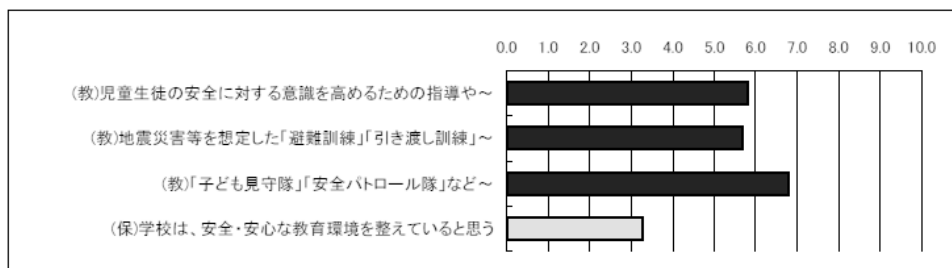
- ・ 学力向上への取り組みについては、教職員の自己評価の方がやや高めとなっている。

[図表 10-5-6：教職員と保護者の相関（心の教育・道徳教育について）]



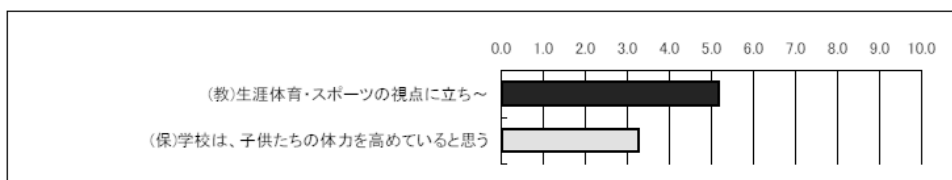
- ・ 道徳の授業の工夫については、教職員と保護者の間でほとんど差がなく、同一の評価をしている。

[図表 10-5-7：教職員と保護者の相関（安心・安全について）]



- ・ 安全・安心については、教職員の評価は全般的に高い一方で保護者はそれ程でもなく、その意識にやや大きな差が見られている。

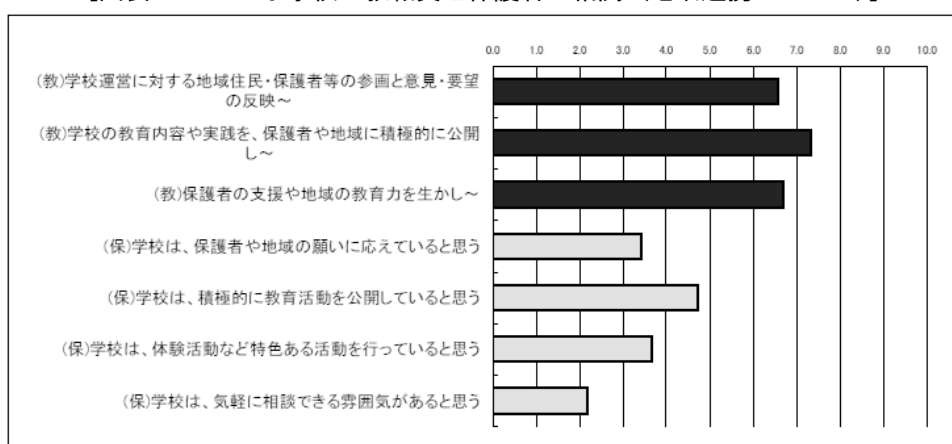
[図表 10-5-8：教職員と保護者の相関（体力向上について）]



- ・ 体力向上の取り組みについては、教職員の自己評価の方が高めとなっている。

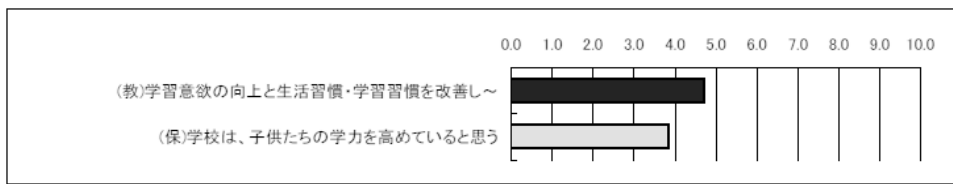
【小学校（6校）：教職員・保護者の回答比較】

[図表 10-5-9：小学校：教職員と保護者の相関（地域連携について）]



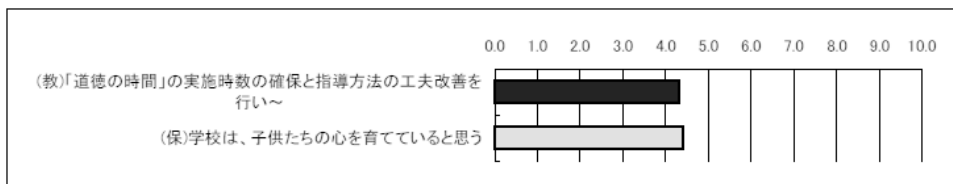
- ・ 町全体とほぼ同様の傾向である。
 - 全般的に教職員の方が高い評価となっている。
 - 保護者の回答について詳しく見てみると、「教育活動の公開」については比較的高く評価している一方で、「気軽に相談できる」という点ではやや低い結果となっている。

[図表 10-5-10：小学校：教職員と保護者の相関（学力向上について）]



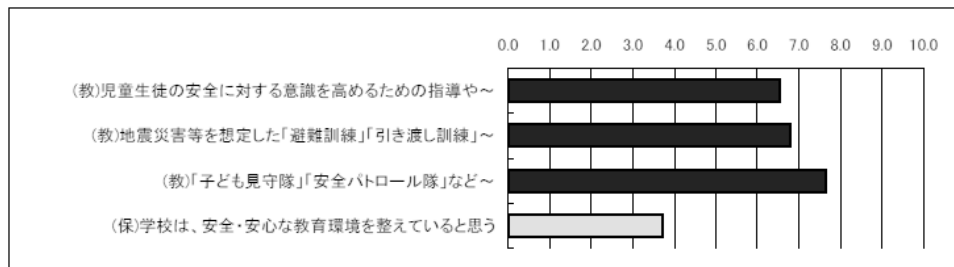
- ・ 学力向上への取り組みについては、教職員の自己評価の方がやや高めとなっている。

[図表 10-5-11：小学校：教職員と保護者の相関（心の教育・道徳教育について）]



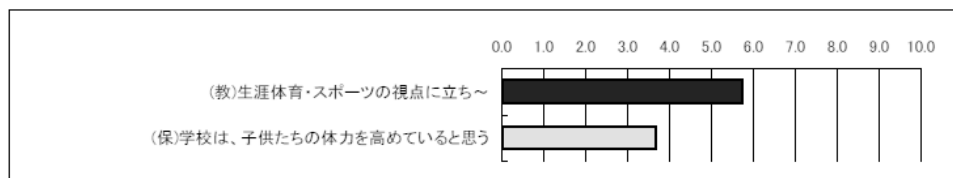
- ・ 道徳の授業の工夫については、教職員と保護者の間でほとんど差がなく、同一の評価をしている。

[図表 10-5-12：小学校：教職員と保護者の相関（安心・安全について）]



- ・ 安全・安心については、教職員の評価は全般的に高い一方で保護者はそれ程でもなく、その意識にやや大きな差が見られている。

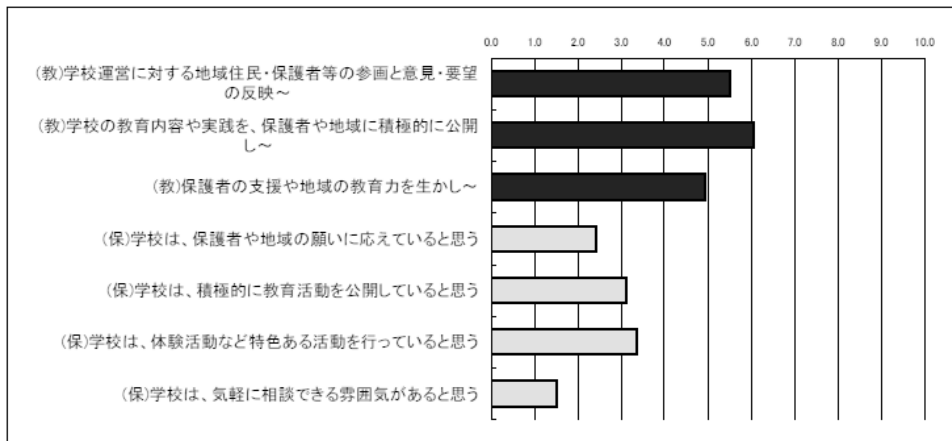
[図表 10-5-13：小学校：教職員と保護者の相関（体力向上について）]



- ・ 体力向上への取り組みについては、教職員の自己評価の方が高めとなっている。

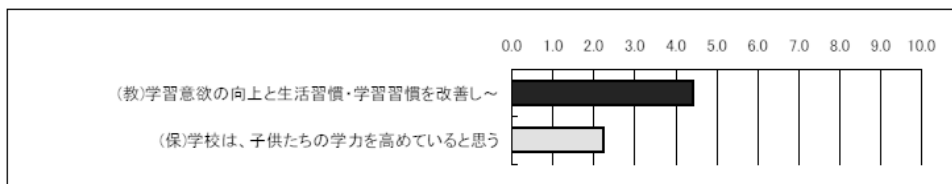
【中学校（3校）：教職員・保護者の回答比較】

〔図表 10-5-14：中学校：教職員と保護者の相関（地域連携について）〕



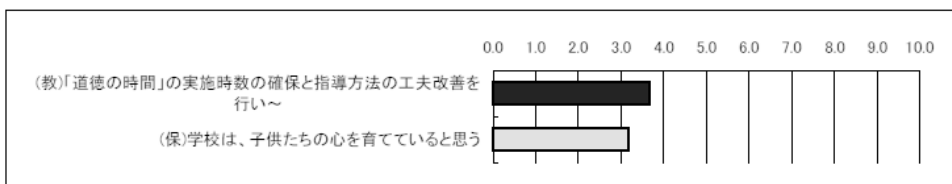
- 町全体とほぼ同様の傾向であるが、小学校と比較して差がやや大きい。
 - 一般的に教職員の方が高い評価となっている。
 - 保護者の回答について詳しく見てみると、「教育活動の公開」については高く評価している一方で、「気軽に相談できる」という点ではやや低い結果となっている。

〔図表 10-5-15：中学校：教職員と保護者の相関（学力向上について）〕



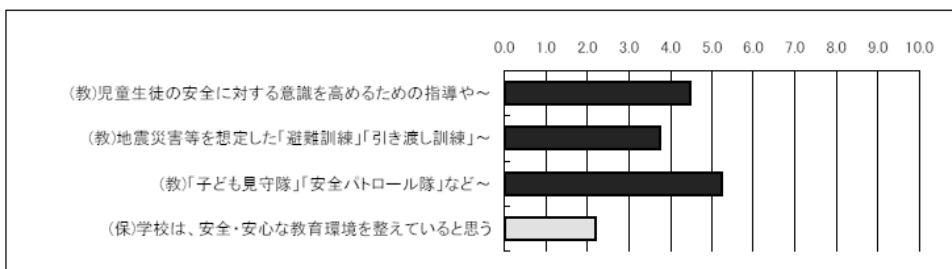
- 学力向上への取り組みについては、教職員の自己評価に比べて保護者の評価がやや厳しい。

〔図表 10-5-16：中学校：教職員と保護者の相関（心の教育・道徳教育について）〕



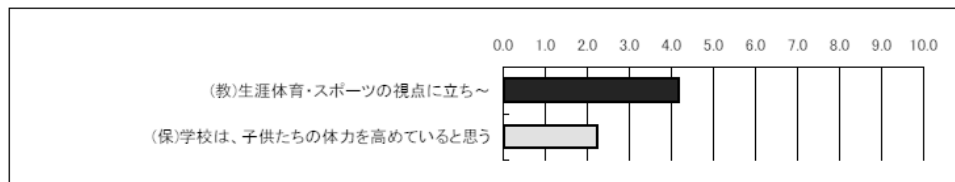
- 心の教育への取り組みについては、教職員と保護者の間で差はほとんど見られない。

〔図表 10-5-17：中学校：教職員と保護者の相関（安心・安全について）〕



- 町全体とほぼ同様の傾向である。
 - 安全・安心については、教職員の評価は全般的に高い一方で保護者はそれ程でもなく、その意識に大きな差が見られている。

[図表 10-5-18 : 中学校 : 教職員と保護者の相関 (体力向上について)]



- 体力向上への取り組みについては、学力向上と同様に、教職員の自己評価に比べて保護者の評価がやや厳しい。

(2) 学校関係者評価

① 実践の概要

○ 調査対象

町内の全小・中学校（小学校6校・中学校3校）の各校長が委嘱した委員を対象とする。なお、委員は、有識者、地域住民、PTA関係、その他校長が認めた者からなる。委員の任期は1年であり、各学校に学校関係者評価委員会を組織する。

○ 調査方法

昨年度は学校評価の土台作りのために時間や手間がかかり、各校11月からの調査となったが、今年度は各校1学期から学校関係者評価委員会を開催し、学校の具体的な教育活動等を説明した上で行い、意見交換や学習参観等により、自己評価結果を踏まえて実施した。評価項目の判定は、委員一人一人が評価用紙に記入するのではなく、話し合いの結果を記入した。

評価例

1. 地域に支えられ「地域と創る学校」づくりの推進

	自己評価	関係者評価
(1) 学校運営に対する地域住民・保護者等の参画と意見・要望の反映を図り、信頼される学校づくりに努めている。	5.81	妥当である
(2) 学校の教育内容や実践を、保護者や地域に積極的に公開し、開かれた学校づくりに努めている。	7.10	妥当である
(3) 保護者の支援や地域の教育力を生かし、学校の教育活動の一層の充実を図っている。	4.17	妥当である

自己評価結果から次年度へ向けて

- (1) 新しい学校を創る集いの委員の方々、図書ボランティア、見守りタイ、学習支援の方々、多くの方が学校に協力的で子どもたちに声をかけ、支援の手をさしのべてくださっている。今後もさらに協力をお願いしたい。
- (2) 学校だよりや学校ホームページを通して、学校の様子を積極的に公開している。昨年度心配されたアクセス数についても年間1万件を超えている。今後も更なる充実を努めたい。
- (3) 学年の行事に多くの方が学習支援をしてくださっており、多くの方々の協力で子どもたちの活動への意欲の高まりと安全な教育環境の中で充実した学習が展開できている。

学校関係者による主な意見

- 先生方はいつも忙しそうに見える。学校が相談しにくいのではなく先生一人一人に話し易さ話し難さがあるのだろう。しかしそれは仕方のないことだと思う。笑顔で挨拶を交わし、お互いの壁を低くしていくことが大切である。相談できる窓口として、学校カウンセラーの役割が年々重要になってきている。常勤していただけるとなおよい。
- 年に3回の教育相談や先生と保護者の懇談会、PTA活動を大切にするよう意識していく必要がある。

② 現在の進捗状況と今後の予定

各校において、学校関係者評価委員会を2月上旬に開催し、その際、児童生徒アンケート及び保護者アンケートの結果や自己評価の結果などを説明、提示した。それらの資料を基に各学校関係者評価委員は一定期間、自己評価の各項目について、評価の妥当性を検証する。2月下旬に再度、学校関係者評価委員会を開催し、各委員の話し合いによって評価項目の判定を行う。判定を記載した学校関係者評価報告書を作成し、平成22年3月31日までに柴田町教育委員会に報告する。

8 本事業の成果及び課題

(1) 成果

- 柴田町教育振興基本計画を基に各学校で特に重点を置いている項目を取り上げ、町の小・中学校全体で自己評価を行い、学校だよりや学校ホームページで公表することで保護者や地域住民の方々への説明責任を果たすことができた。
- 来年度以降も町全体で学校評価を継続し分析・考察していく上で集計作業を円滑に行うための、学校評価集計システムを構築することができた。
- 本事業を行ったことにより、今後各校が自らの教育活動、その他の学校運営について、継続的に改善を推進していくための視点を明確にすることができた。
- 本事業実施2年目という事もあり、年間を見通した学校評価のPDCAサイクルを定着させることができた。
- 学校関係者評価委員には、1年間にわたって教育活動を見て頂き、関係者評価の際により確かな視点で判断していただくことができるよう計画を立て、実施することができた。

(2) 課題

- 今年度は、学校評価集計システム構築の初年度ということもあり、入力・集計作業の一部を専門業者（株式会社内田洋行）に依頼した。来年度は専門業者に委託することなく、全て各校担当による入力・集計作業となるため、システムへの入力・集計作業の手順、活用方法を全職員で研修を行い周知徹底する必要がある。
- 各アンケートや自己評価の自由記述項目については、その在り方や分析、考察方法について今後も工夫改善が必要である。

9 参考資料

- 資料 1 学校評価・情報提供の充実・改善のための実践研究事業 事業運営委員会委員名簿
- 資料 2 学校評価・情報提供の充実・改善のための実践研究事業 事業内容検討会委員名簿
- 資料 3 児童・生徒アンケート用紙
- 資料 4 保護者アンケート用紙
- 資料 5 自己評価用紙
- 資料 6 平成 21 年度学校関係者評価報告書様式
- 資料 7 学校評価・情報提供の充実・改善のための実践研究事業組織図
- 資料 8 柴田町学校評価実施要項
- 資料 9 柴田町学校関係者評価委員会設置要綱
- 資料 10 柴田町立小中学校学校関係者評価委員会設置要領

資料1 学校評価・情報提供の充実・改善のための実践研究事業 事業運営委員会委員名簿

No.	区 分	氏 名	所属及び役職
1	学識経験者	太 田 四 郎	仙台大学教授
2	宮城県教育庁	鈴 木 文 也	義務教育課課長補佐
3	地 域	我 妻 一 雄	柴田町社会福祉協議会会長
4	保 護 者	山 内 富士子	柴田町小中学校父母教師会連絡協議会会長
5	学校関係者	馬 場 照 雄	校長会会長
6	学校関係者	高 橋 裕 美	教頭会代表
7	事 務 局	阿 部 次 男	教育長
8	事 務 局	小 池 洋 一	教育総務課課長
9	事 務 局	太 齋 正 幸	教育総務課主幹
10	事 務 局	関 弘 之	教育相談員

資料2 学校評価・情報提供の充実・改善のための実践研究事業 事業内容検討会委員名簿

NO	学 校 名	氏 名	備 考
1	船 岡 小 学 校	林 恵美子	
2	槻 木 小 学 校	石 河 秀 一	
3	柴 田 小 学 校	上 岡 大 希	
4	船 迫 小 学 校	遠 藤 健 一	
5	西 住 小 学 校	櫻 庭 英 登	
6	東 船 岡 小 学 校	玉 田 芳 治	事務局
7	船 岡 中 学 校	川 村 孝 幸	
8	槻 木 中 学 校	菅 野 昭 彦	
9	船 迫 中 学 校	狩 野 隆	
10	東 船 岡 小 学 校 長	日 下 享	
11	教 育 長	阿 部 次 男	
12	教 育 総 務 課 課 長	小 池 洋 一	
13	教 育 総 務 課 学 務 班 主 幹	太 齋 正 幸	
14	教 育 総 務 課 教 育 相 談 員	関 弘 之	
15	(株) 内 田 洋 行		

〇〇〇学校 児童生徒アンケート

あなたの学年と性別に○をつけてください。

学年	小 3年・4年・5年・6年 中 1年・2年・3年	性別	男子・女子
----	-----------------------------	----	-------

各質問について、次の中からあなたの考えに一番近いものを1つ選んで○をつけてください。

A:かなりあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

例		かなり あてはまる	あてはまる	あまりあて はまらない	まったくあて はまらない
(1)	授業に進んで取り組もうとしていますか。.....	A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D

質問		かなり あてはまる	あてはまる	あまりあて はまらない	まったくあて はまらない
(1)	授業に進んで取り組もうとしていますか。.....	A	B	C	D
(2)	健康に気をつけ、好ききらいせずなんでも食べ 運動しようとしていますか。.....	A	B	C	D
(3)	家庭学習に進んで取り組もうとしていますか。.....	A	B	C	D
(4)	自分から進んで読書しようとしていますか。.....	A	B	C	D
(5)	規則正しい生活をしようとしていますか。..... (早寝, 早起き, 朝ごはんを食べる)	A	B	C	D
(6)	自分からあいさつをしようとしていますか。.....	A	B	C	D
(7)	友達ちに優しくしようとしていますか。.....	A	B	C	D
(8)	決まりを守ろうとしていますか。.....	A	B	C	D
(9)	命を大切にしようとしていますか。.....	A	B	C	D
(10)	交通事故に気をつけ、安全に生活しようとしていますか。.....	A	B	C	D
(11)	学校は楽しいですか。.....	A	B	C	D

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

平成21年12月〇日

保護者の皆様へ

柴田町教育委員会
 教育長 阿部 次男
 〇〇〇学校
 校長〇〇〇〇

保護者アンケートについて(お願い)

初冬の候、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、柴田町教育委員会は、平成20～21年度の2カ年間、文部科学省から「学校評価・情報提供の充実改善事業」の指定を受けました。この事業を通して、町内各小中学校は、学校運営に対する保護者の皆様の意見や要望の反映を図り、「地域に開かれ、信頼される学校づくり」をより一層推進したいと考えております。

つきましては、ご多用中大変恐縮でございますが、以下のアンケートにご記入の上、12月〇〇日(〇)まで、封入いただいたものを各担任へご提出いただきますようお願い申し上げます。

◆**お子さんの学年と性別に○をつけてください。**

学年	1年・2年・3年・4年・5年・6年	性別	男子・女子
----	-------------------	----	-------

◆**回答方法は以下の通りです。**

- ・ お子さんお一人につき、1枚の記入をお願い致します。
 - ・ 各質問について、以下の中からもっとも近いものを1つ選んで○をつけてください。
- A:とてもそう思う B:そう思う C:あまりそう思わない D:全くそう思わない
- ・ 評価が難しい場合には無回答でも結構です。
 - ・ 各設問の終わりにご意見・ご要望欄を設けています。お子さんや学校のことでお気づきの点がございましたら、可能な範囲でご記入いただければ幸いです。

1. お子さんについて

とても
そう思う そう思う あまりそう
思わない 全くそう
思わない

- | | | | | |
|--------------------------------------|---|---|---|---|
| (1) お子さんは、授業に意欲的に取り組んでいると思う。..... | A | B | C | D |
| (2) お子さんは、健康に気をつけ体をきたえていると思う。..... | A | B | C | D |
| (3) お子さんは、家庭学習に進んで取り組んでいると思う。..... | A | B | C | D |
| (4) お子さんは、自分から進んで読書していると思う。..... | A | B | C | D |
| (5) お子さんは、規則正しい生活をしていると思う。..... | A | B | C | D |
| (6) お子さんは、自分からあいさつをしていると思う。..... | A | B | C | D |
| (7) お子さんは、他人を思いやる心が育っていると思う。..... | A | B | C | D |
| (8) お子さんは、きまりを守ろうとする心が育っていると思う。..... | A | B | C | D |
| (9) お子さんは、生命を大切にしようとする心が育っていると思う。 | A | B | C | D |
| (10) お子さんは、交通安全や身の回りの安全に気をつけていると思う。 | A | B | C | D |
| (11) お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしていると思う。..... | A | B | C | D |

◆前記の項目について(またはそれ以外で), お子さんについてお気づきの点がございましたらご記入ください。

※ 以下の項目については, ○○○学校にお子さんが2人以上いる場合は, 一番上のお子さんについてのみお答えください。

2. 学校について

	とても そう思う	そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
(12) 学校は, 子供たちの心を育てていると思う。.....	A	B	C	D
(13) 学校は, 子供たちの学力を高めていると思う。.....	A	B	C	D
(14) 学校は, 子供たちの体力を高めていると思う。.....	A	B	C	D
(15) 学校は, 保護者や地域の願いに応えていると思う。.....	A	B	C	D
(16) 学校は, 積極的に教育活動を公開していると思う。.....	A	B	C	D
(17) 学校は, 安全・安心な教育環境を整えていると思う。.....	A	B	C	D
(18) 学校は, 体験活動など特色ある活動を行っていると思う。.....	A	B	C	D
(19) 学校は, 相談しやすい雰囲気があると思う。.....	A	B	C	D
(20) 子供を, 現在の学校に通わせて良かったと思う。.....	A	B	C	D

◆上記の項目について(またはそれ以外で), 学校についてお気づきの点がございましたらご記入ください。

◆全体を通して, 学校へのご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

アンケートは以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

平成21年12月

柴田町立〇〇〇学校 自己評価

- 各質問について、以下の中からもっとも近いものを1つ選んで○をつけてください。

A : 大変良い	(適切な取組で、高いレベルにある)
B : 良い	(適切な取組で、満足できるレベルにある)
C : 課題がある	(取組が不十分で、成果は十分とは言えない)
D : かなり課題がある	(取組は不十分で、成果はほとんどあがっていない)

- 評価が難しい場合には無回答でも結構です。
- 「C」及び「D」と評価した項目、また無回答の項目について、意見欄にその理由をご記入いただくと幸いです。
- 校内集計の関係上、平成21年12月〇日(〇)までにご提出をお願い致します。ご協力お願いいたします。

1. 地域に支えられ「地域と創る学校」づくりの推進

		大変良い	良い	課題がある	かなり課題がある
(1)	学校運営に対する地域住民・保護者等の参画と意見・要望の反映を図り、信頼される学校づくりに努めている。	A	B	C	D
意見等					
(2)	学校の教育内容や実践を、保護者や地域に積極的に公開し、開かれた学校づくりに努めている。	A	B	C	D
意見等					
(3)	保護者の支援や地域の教育力を生かし、学校の教育活動の一層の充実を図っている。	A	B	C	D
意見等					

2. 「学力向上」と新学習指導要領の趣旨の徹底

		大変良い	良い	課題がある	かなり課題がある
(4)	「学力向上」を目指して、指導方法の工夫・改善を図るとともに、個性を生かした楽しく分かる授業の実践に努めている。	A	B	C	D
意見等					
(5)	学習意欲の向上と生活習慣・学習習慣を改善し、主体的な学習を促して基礎学力の向上に努めている。	A	B	C	D
意見等					

3. 豊かな人間性を育む道徳教育の充実

		大変 良い	良い	課題が ある	かなり 課題が ある
(6)	「道徳の時間」の実実施時数の確保と指導方法の工夫改善を行い、道徳的実践力を高めるとともに、教育活動全体を通じた道徳的実践意欲の向上に努めている。	A	B	C	D
意見等					

4. 生命の尊重と社会性の育成を図る生徒指導の充実

		大変 良い	良い	課題が ある	かなり 課題が ある
(7)	「いのちと心を大切にすること」及び「良好な人間関係をつくること」が重要であるという共通認識のもと、いじめや不登校のない学校づくりに努めている。	A	B	C	D
意見等					
(8)	児童生徒の発達段階にふさわしい生徒指導を推進し、家庭と連携して基本的な生活習慣の育成に努めている。	A	B	C	D
意見等					
(9)	児童生徒に自己の特性を、理解させるとともに、能力・適性や興味・関心等に基づいて将来の生き方を考えさせるキャリア教育の充実に努めている。	A	B	C	D
意見等					

5. 安全・安心な教育環境の整備・促進

		大変 良い	良い	課題が ある	かなり 課題が ある
(10)	児童生徒の安全に対する意識を高めるための指導や「防犯教室」を実施して児童生徒の安全確保に努めている。	A	B	C	D
意見等					
(11)	地震災害等を想定した「避難訓練」「引き渡し訓練」「防災教室」を実施している。	A	B	C	D
意見等					
(12)	「子ども見守隊」「安全パトロール隊」など地域の支援を受けて、通学路の安全確保や地域の巡回などを行い、事故や事件の被害を未然に防止している。	A	B	C	D
意見等					

		大変 良い	良い	課題が ある	かなり 課題が ある
(13)	生涯体育・スポーツの視点に立ち、健康でたくましい児童生徒の育成に努めている。	A	B	C	D
意見等					

6. 特別支援教育の充実

		大変 良い	良い	課題が ある	かなり 課題が ある
(14)	「特別支援コーディネーター」を中心に、児童生徒一人一人のニーズに応じた指導を行っている。	A	B	C	D
意見等					

7. 国際理解教育の促進

		大変 良い	良い	課題が ある	かなり 課題が ある
(15)	自国文化に対する理解を深めるとともに、他国文化に学ぶ国際理解と国際化に対応した教育の推進に努めている。	A	B	C	D
意見等					

8. 情報教育の推進及び学校図書館の充実

		大変 良い	良い	課題が ある	かなり 課題が ある
(16)	高度情報化社会に適切に対応していくことができるよう、各教科に応じた情報活用能力の育成を目指す情報教育の推進に努めている。	A	B	C	D
意見等					
(17)	学校図書館を整備し、児童生徒の読書活動の充実に努めている。	A	B	C	D
意見等					

9. 教職員の資質及び指導力の充実・向上

		大変 良い	良い	課題が ある	かなり 課題が ある
(18)	教職員の自己研修を促し、指導力向上を図るとともに、学校課題の解決を図る校内研究・校内研修を積極的に推進している。	A	B	C	D
意見等					

平成21年度 自己評価結果を踏まえた学校関係者評価報告書

柴田町立〇〇〇学校

1 評価期間 平成21年12月～平成22年2月

2 学校関係者評価委員

〇〇(委員長), 〇〇(副委員長), 〇〇, 〇〇, 〇〇, 〇〇

3 評価規準

- | | |
|---------------|------------------------------|
| ○妥当である。 | (適切な取組で、次年度へ向けての取組も妥当である) |
| ○妥当でない。 | (取組が不十分で、次年度へ向けての改善策も妥当でない。) |
| ○判断することができない。 | |

※自己評価の数値の算出方法

教職員の自己評価で、A：大変良い・・・10点、B：良い・・・5点、C：課題がある・・・-5点、D：かなり課題がある・・・-10点とし、各項目の合計点数を教職員数で割った値。

4 評価項目

1. 地域に支えられ「地域と創る学校」づくりの推進

	自己評価	関係者評価
(1) 学校運営に対する地域住民・保護者等の参画と意見・要望の反映を図り、信頼される学校づくりに努めている。		
(2) 学校の教育内容や実践を、保護者や地域に積極的に公開し、開かれた学校づくりに努めている。		
(3) 保護者の支援や地域の教育力を生かし、学校の教育活動の一層の充実を図っている。		
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	

2. 「学力向上」と新学習指導要領の趣旨の徹底

	自己評価	関係者評価
(4) 「学力向上」を目指して、指導方法の工夫・改善を図るとともに、個性を生かした楽しく分かる授業の実践に努めている。		
(5) 学習意欲の向上と生活習慣・学習習慣を改善し、主体的な学習を促して基礎学力の向上に努めている。		
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	

3. 豊かな人間性を育む道德教育の充実

	自己評価	関係者評価
(6) 「道德の時間」の実実施時数の確保と指導方法の工夫改善を行い、 道徳的実践力を高めるとともに、教育活動全体を通じた道徳的実践意欲 の向上に努めている。		
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	

4. 生命の尊重と社会性の育成を図る生徒指導の充実

	自己評価	関係者評価
(7) 「いのちと心を大切にすること」及び「良好な人間関係をつくること」が 重要であるという共通認識のもと、いじめや不登校のない学校づくりに努 めている。		
(8) 児童生徒の発達段階にふさわしい生徒指導を推進し、家庭と連携して基本 的な生活習慣の育成に努めている。		
(9) 児童生徒に自己の特性を、理解させるとともに能力・適性や興味・関心等 に基づいて将来の生き方を考えさせるキャリア教育の充実に努めている。		
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	

5. 安全・安心な教育環境の整備・促進

	自己評価	関係者評価
(10) 児童生徒の安全に対する意識を高めるための指導や「防犯教室」を実施し て児童生徒の安全確保に努めている。		
(11) 地震災害等を想定した「避難訓練」「引き渡し訓練」「防災教室」を 実施している。		
(12) 「子ども見守隊」「安全パトロール隊」など地域の支援を受けて、 通学路の安全確保や地域の巡回などを行い、事故や事件の被害を未然に 防止している。		
(13) 生涯体育・スポーツの視点に立ち、健康でたくましい児童生徒の育成に努 めている。		
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	

6. 特別支援教育の充実

		自己評価	関係者評価
(14)	「特別支援コーディネーター」を中心に、児童生徒一人一人のニーズに応じた指導を行っている。		
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	

7. 国際理解教育の促進

		自己評価	関係者評価
(15)	自国文化に対する理解を深めるとともに、他国文化に学ぶ国際理解と国際化に対応した教育の推進に努めている。		
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	

8. 情報教育の推進及び学校図書館の充実

		自己評価	関係者評価
(16)	高度情報化社会に適切に対応していくことができるよう、各教科に応じた情報活用能力の育成を目指す情報教育の推進に努めている。		
(17)	学校図書館を整備し、児童生徒の読書活動の充実に努めている。		
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	

9. 教職員の資質及び指導力の充実・向上

		自己評価	関係者評価
(18)	教職員の自己研修を促し、指導力向上を図るとともに、学校課題の解決を図る校内研究・校内研修を積極的に推進している。		
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	

10. その他

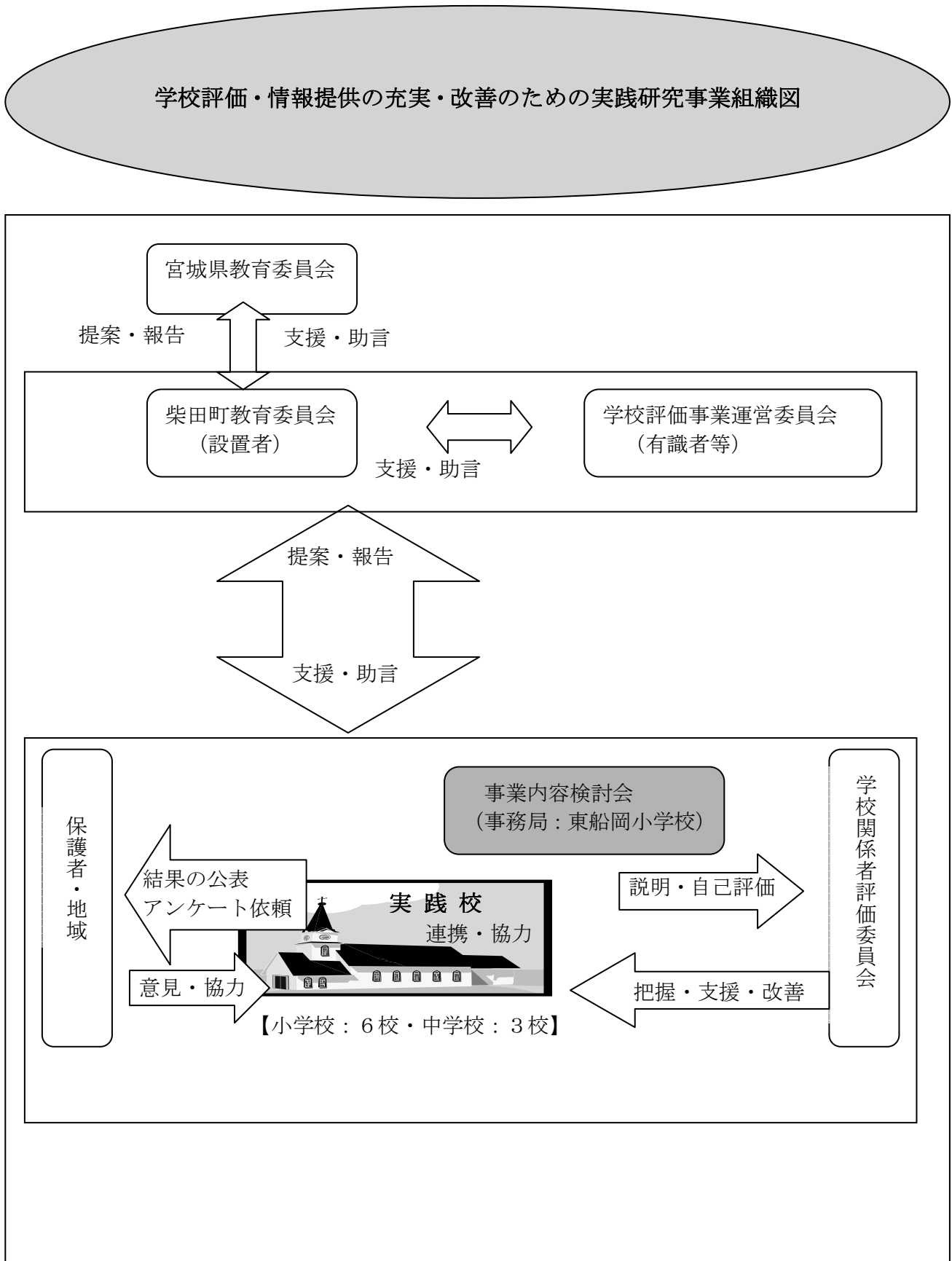
		自己評価	関係者評価
(19)	子供たちと一緒に話をしたり，遊んだり，教育相談をするなどの機会を多くつくっている。		
(20)	子供たちは学校へ来るのを楽しみにしている。		
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	

11. 教育目標について

		自己評価	関係者評価
(21)	教育目標「※各学校の教育目標を記載」が，学校の教育活動において具現化されている。		
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	

◆その他:学校関係者による主な意見

--



柴田町学校評価実施要項

平成20年 9 月 1 日
柴田町教育委員会

1 趣旨

本町では、教育重点課題の一つとして地域に支えられ、「地域と創る学校づくり」を掲げ、地域に開かれた特色ある学校づくりの推進に努めている。

各学校は、学校運営に対する地域住民及び保護者等の参画と意見及び要望の反映を図り、信頼される学校づくりを推進するため、この要項に基づき学校評価を計画的に実施し、教育活動や学校運営について組織的・継続的に改善を図るとともに、保護者や地域住民に説明責任を果たし、町民の負託に応える教育を推進することが重要である。

2 目的

この要項は、文部科学省が策定した学校評価ガイドライン[改訂]（平成20年1月31日改訂。以下「学校評価ガイドライン」という。）に基づき、以下のことを目的として定める。

- (1) 各学校が自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき成果やそれに向けた取組について目標を設定し、その達成状況を把握及び整理し、取組の適切さを検証することにより、組織的かつ継続的に改善すること。
- (2) 各学校が、自己評価及び学校関係者評価の実施とその結果の説明及び改善方法の公表並びに情報提供により、保護者及び地域住民から自らの教育活動その他の学校運営に対する理解及び参画を得て、信頼される開かれた学校づくりを進めること。
- (3) 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援及び条件整備等の必要な措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

3 実践校

町立小中学校とする。

4 学校評価の構成

「学校評価ガイドライン」に基づき、以下の3つの要素から構成する。

- (1) 学校が自ら行う評価及び学校運営の改善【自己評価】
- (2) 保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会が、自己評価の結果について評価することを基本として行う評価【学校関係者評価】
- (3) 評価結果の説明及び公表、設置者への報告並びに設置者等による支援及び条件整備等の改善【設置者への評価結果の報告】

5 推進組織

- (1) 設置者は、上記目的を達成するため、柴田町学校評価事業運営委員会設置要綱(平成20年柴田町教委告示第11号)に規定する「柴田町学校評価事業運営委員会」を設置し、柴田町における学校評価の適切な活用及び効果的な運用方法等について協議する。
- (2) 学校は、各学校における学校評価の組織的な推進体制を整備するため、東船岡小学校を事務局とし各学校の代表職員から構成される「事業内容検討会」を設置し、取組方法・改善に向けた協議をする。
- (3) 各学校は、自己評価の客観性・透明性を高めるため、校長より委嘱された保護者や地域住民等から構成される「学校関係者評価委員会」を設置し、当該学校の教育活動の参観等を通して自己評価結果等について評価する。

6 方法

目標 (Plan) — 実行 (Do) — 評価 (Check) — 改善 (Action) という PDCA サイクルに基づき、以下の手順で継続的な改善に向けて実施する。

(1) 目標設定

各学校は、学校全体の教育目標とともに目指すべき成果やそれに向けた取組に関する中期と単年度の目標を具体的に設定する。また、達成状況や達成に向けた取組状況を把握するための指標を設定する。

(2) 評価項目の設定

「学校評価ガイドライン」の「【参考2】評価の項目・指標等を検討する際の視点となる例」を参考にして作成した柴田町共通の自己評価項目をベースに、各学校において「特色ある教育活動等」に独自の項目を追加し実践目標を適切に設定する。

なお、実践目標を作成する場合においては、全教職員が校務分掌ごとに分担し工夫しながら行う。

(3) 自己評価の実施

目標の達成状況を検証し、その原因分析等を行うために、アンケート調査など多くの情報や資料を収集・整理し、各学校における現状と課題を把握する。

実施するに当たっては、校長のリーダーシップの下、全教職員が参加して日常的かつ組織的に取り組む。

なお、年度末の総括評価のみならず、中間評価を重視しその取組状況を設置者に報告する。

(4) 学校関係者評価の実施

自己評価の客観性及び透明性を高めるため、地域住民等との協力及び連携を図り、学校関係者評価委員が学校運営の現状と課題について共通理解を深めるとともに、改善に向けた取組が適切かどうかを評価する。

実施するに当たっては、学校の具体的な目標等を説明した上で行き、意見交換や学校訪問等により積極的な学校を開く体制づくりを行う。

(5) 自己評価書の作成

具体的な目標等，目標の達成状況及び取組の状況，取組の適切さの検証結果を加え，改善方策などについて簡潔かつ明瞭に記述し，設置者へ報告する。

(6) 学校関係者評価書の作成

目標の達成状況及び取組の状況，取組の適切さの評価結果，教育活動その他の学校運営の改善に関する意見などについて簡潔かつ明瞭に記述し，各学校に報告する。

7 公表

自己評価書及び学校関係者評価書の内容について，保護者を対象とした説明会や学校だより，ホームページ等により地域住民に説明し，それを契機として保護者や地域住民と継続的な対話を図ることで教育活動の改善に向けた具体的な交流・協力を行う。

なお，公表するにあたっては，PDCA サイクルのつながりを重視し，結果や分析のほか今後の改善策も併せて公表する。

8 報告

各学校は，自己評価書及び学校関係者評価書のほか，学校の対応（改善）を取りまとめた文書を設置者及び柴田町学校評価事業運営委員会に報告する。

9 改善

設置者は，各学校の自己評価書，学校関係者評価書，学校訪問や校長に対する意見聴取等により，各学校の教育活動その他の学校運営を把握し，それらを基に，学校に対する支援や条件整備等の改善を行う。

なお，改善にあたっては，学校の自主性・自律性を高めることを踏まえて，各学校の現状を把握し改善する。

10 支援・助言

設置者は，評価が適切に行われたかどうか，学校運営の改善に向けた取組が適切かどうかを検証し，学校運営の改善に向けた支援・助言を行う。

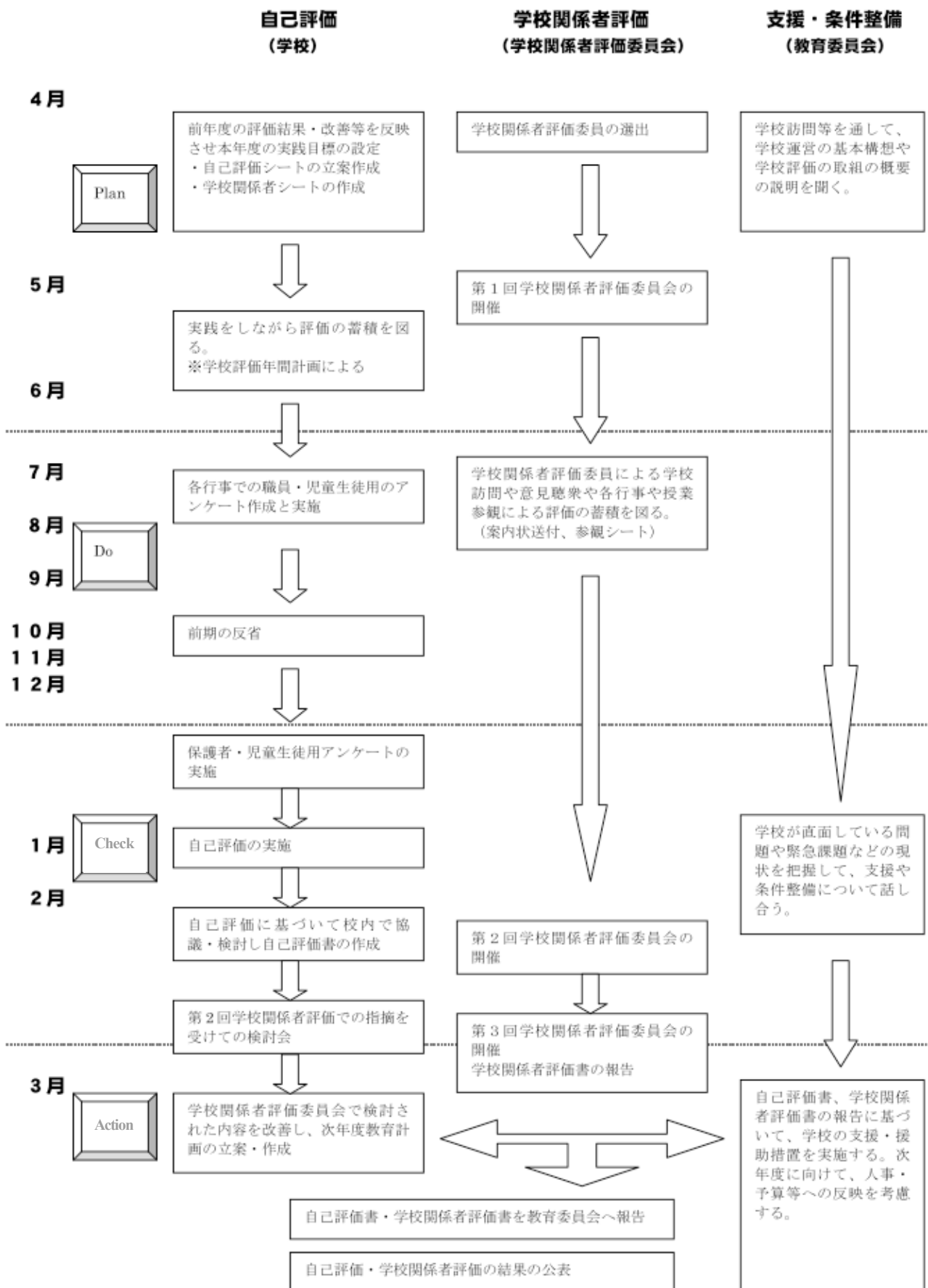
11 留意事項

(1) 学校評価とは，学校が保護者や地域住民とともに一体となって子どもたちの健やかな成長を図るための一つのツールであり，学校の序列化や過度の競争といった弊害が生じないように十分に配慮する。

(2) 自己評価書や学校関係者評価書など学校運営に関する情報を公表・提供する場合は，子どもの個人情報の保護に留意する。

12 学校評価計画（別紙）

学校評価の年間計画



資料9 柴田町学校関係者評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 町の学校評価を充実し、改善するための実践研究事業を実施するに当たり、地域から信頼され、地域とともに育つ学校の運営を目指し、望ましい学校評価手法の在り方等についての検討協議を行うため、柴田町学校評価事業運営委員会（以下「運営委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 運営委員会は、前条に規定する目的を達成するため、次に掲げる事項について検討する。

- (1) 学校運営の効果的な推進のため、自己評価及び学校関係者評価の調和並びに学校評価の適切な活用に関する事。
- (2) 学校評価手法の効果的な運用方法に関する事。
- (3) その他学校評価の支援及び助言に関する事。

(組織等)

第3条 運営委員は、別表に掲げる委員10人をもって組織する。

- 2 委員は、教育長が委嘱又は任命する。
- 3 委員の任期は、平成22年3月31日までとする。ただし、再任を妨げない。
- 4 委員に欠員が生じたときは、補欠委員を置くものとする。補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 運営委員会に、委員長及び副委員長を各1人置き、委員の互選によって定める。

- 2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 運営委員会の会議は、委員長が召集し、委員長がその議長となる。

- 2 運営委員会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。
- 3 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(意見の聴取)

第6条 運営委員会は、委員長が必要であると認めたときは、関係者の出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 運営委員会の庶務は、柴田町教育委員会教育総務課で処理する。

(その他)

第8条 この告示に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

- 1 この告示は、平成20年9月1日から施行する。
- 2 この告示は、平成22年3月31日限り、その効力を失う。

資料10 柴田町立小中学校学校関係者評価委員会設置要領

(設置)

第1条 柴田町学校評価の充実・改善のための実践研究事業の実施に伴い、地域から信頼され、地域とともに育つ学校の運営を目指して、町立小中学校の自己評価及びその改善に向けた取組が適切であることを評価するため、学校ごとに学校関係者評価委員会を設置する。

(所掌事項)

第2条 学校関係者評価委員会の所掌事項は、次のとおりとする。

(1) 学校運営の効果的な推進のため、学校の自己評価及び学校関係者評価の調和並びに適切な活用についての検討

(2) 学校評価手法の効果的な運用方法等についての検討

(組織等)

第3条 学校関係者評価委員会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから、校長が委嘱する。

(1) 有識者

(2) 地域住民

(3) PTA関係

(4) その他校長が認めた者

3 委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

4 委員に欠員が生じたときは、補欠委員を置くものとする。補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 学校関係者評価委員会に、委員長及び副委員長を各1人置き、委員の互選によって定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 学校関係者評価委員会の会議は、委員長が召集し、委員長がその議長となる。

(評価活動)

第6条 学校関係者評価委員会は、各学校が行う自己評価の適切さ及び教育活動その他の学校運営の改善に向けた取組の適切さについて検証する。

(守秘義務)

第7条 学校関係者評価委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。また、その職を退いた後も同様とする。

(庶務)

第8条 学校関係者評価委員会の庶務は、各学校で処理する。

(その他)

第9条 この要領に定めるもののほか、学校関係者評価委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要領は、平成20年9月1日から施行する。

平成21年度
学校評価・情報提供の充実・改善のための実践研究事業
－報告書－

発行月日	平成22年2月
編集発行	宮城県教育庁義務教育課
住 所	仙台市青葉区本町3-8-1
電 話	022-211-3644